

The University Times

December 2013 Vol. 31

<http://jtimes.jp/utimes>

produced by IELTS by Eiken × The Japan Times ©THE JAPAN TIMES, LTD. 2013

CONTENTS

■ Global Leader's Voice 桑原徹郎さん(三菱商事株式会社) 1 2	■ Journalist's Eye 「駐日ベナン大使」「コンビニ宅配」 6	■ Key to Success 成功する留学の法則 10	■ IELTS World IELTSテストのコツ 13
■ Studying Abroad in the U.S.A. 私の米国留学 3	■ News in English 英文記事を読んでみよう 7	■ Scholarship List 奨学金情報 11	■ IELTS World IELTS 対策コースナビ／攻略本 14
■ Special Feature 「グローバル人材」育成のゆくえ 4 5	■ Visit a Global Company 全日本空輸株式会社 8 9	■ IELTS World IELTS Hot News 12	■ Study Abroad Benefits 留学で培う3つの力 15

Global Leader's Voice

グローバルリーダーインタビュー

学生時代に触れておきたい 自分と異なる価値観や文化

Vol.1 桑原徹郎さん 三菱商事株式会社
エネルギー事業グループ 常勤顧問

三菱商事でエネルギー事業に携わり、海外を飛び回って日本のエネルギー資源開発に尽力してきた桑原徹郎さん。幼少期にも長く海外で過ごした経験を持つという。海外での生活やビジネスで培われたグローバルな視点から現在の日本の若者へ、激励のメッセージをいただいた。

多様性を認識し 寛容性を学んだ幼少期

東京で4人兄弟の3番目として生まれた桑原さんは、父親の仕事の関係で幼少期より複数の国での生活を体験した。最初に訪れたのはタイのバンコク。そこで5歳から7歳までを過ごした。その頃を振り返り桑原さんは、「幼かったのであまり記憶にないのですが、意外と現地の生活になじんでいたのですね。無意識に『人はそれぞれ違う』ということを理解していたように思います」と話す。

その後、一度日本に戻るも、9歳のとき再び海外へ。11歳までの2年間、当時の西ドイツ・ハンブルクで国民学校に編入した。当時は学校のみならず、町全体にアジア系の人々がほとんどおらず、アジアのどの国の人なのかも区別してもらえなかった。そのため、外見だけでなく、ものの考え方がそれぞれまったく異なる人々の存在を非常に強く意識したという。

一方、桑原さんと英語との関わりは、この頃から始まる。「私の通った学校では、小学校で英語を教えていたので、小学4年生のときにはドイツ語で英語を勉強しましたが、非常に大変だったことをよく覚えています。ド

イツ語もほとんどわからないのに、さらに英語を勉強するなんて無理だと思いました」と当時を振り返る。しかし、持ち前の負けず嫌いな性格と、「ドイツ語と英語が似ていた」点に助けられ、猛勉強の結果、「読み・書き」が得意になっていった。

11歳で日本に帰国し、中学校に入学する。桑原さんは、すでに学習していた英語を生かせると思っていたが、その英語の授業でつまづく。当時の日本の英語教育は、文法や発音記号を正確に覚えさせる指導が一般的であり、その授業に慣れることができなかったのだ。また、ドイツから帰国した当初は、外見は同じ日本人でありながら、好奇の目にさらされたという。

「日本人という意味では同じですが、日本では目にしない服装や立ち居振る舞いが、周りの日本人と違って、いろいろ目立っていたんでしょうね」

そんな折、また父親の海外転勤が決まる。桑原さんにとって3度目の渡航先はアメリカ・シカゴであった。すぐに現地校に通うことになったのだが、ちょうど多感な年頃。またしても「自分と周りの違い」を意識せざるを得なかった。そんなある日、思わぬできごとが起こった。



エネルギー事業グループ 常勤顧問の桑原徹郎さん

「学校の帰り道に、私よりも年下のアメリカ人の子もたちが、見知らぬアジア人である私に、道路に書いてある英語の短縮形を指して何の短縮形であるか教えてほしいと言ってきたんです。これにはびっくりしました」
アメリカではさまざまな人種が共に生活しており、お互いに文化の多様性を受け入れる社会ができてきたのだ。

「彼らにとって、『〇〇人だから』ということはありません。人種や文化の違いを本当の意味で理解し、認め合い、共に生活することの大切さを学んだ時期だと思います」と桑原さんは話す。

学生時代の憧れは 「正義の味方」

アメリカから日本に帰国後、当時、都内で帰国子女を受け入れていた全寮制の都立秋川高校の編入試験を受験したが失敗。約半年間の浪人生活を送ることになる。

「当時は帰国子女の受け入れに関する意識や体制が、現在ほど整っていませんでした。兄は渡米時、高校1年生だったのですが、3年後に帰国し、もう一度高校1年生から編入せざるを得ませんでした。海外で取得した単位がまったく認められなかったのです。たと

えアメリカの大学でPh.D.（博士号）を取得していても、日本の大学では認められず、就職できなかった時代なんて、今では考えられないでしょう」と笑いながら話す。15歳の少年にとって、編入試験の失敗は軽いものではなかったはずだ。

「日本で出題される英語の問題にはかなり苦労しましたが、ここでも負けず嫌いの性格が功を奏して、何とかがんばれました」と振り返る。そして、翌年4月に同校への編入を果たす。

将来の進路を考え始める高校時代には、当時アメリカで自動車の安全性に関する訴訟で奮闘していたラルフ・ネーダー氏*1の活躍を知り、弱者を助ける「正義の味方」に憧れた。ネーダー氏と同じ弁護士になることを夢見て、早稲田大学の法学部に入学するが、3年生であらためて自分の進路について考えたとき、果たして自分の進むべき道は法律の道なのだろうかと疑問に思った。自身の育った環境を振り返りながら、次第に世界に貢献できる国際的な仕事への興味が湧き、人の役に立つ仕事がしたいという思いから、三菱商事に入社する。

入社後は、一貫して海外勤務の希望を出していたという桑原さん。入社8年目に願いとなって、マレーシアへの海外勤務が決まった。同国の国営石油公社とシェル石油との650人の従業員を擁する合弁会社の課長の立場での赴任だ。念願の海外勤務であったが、最初から全てが順調にはいかなかった。

マレーシアはもともと多民族・多宗教の国で、仕事に対する考え方も日本人とは大きく異なっていた。社員を動かすことに苦労していたあるとき、社員とその家族が集まる機会があった。いつもは仕事の面で折り合いが悪く、なかなかこちらの思い通りに仕事はかどらない社員が、夫人や子どもたちと一緒にいる姿を見たときに、その社員も家族の中では大黒柱であり、このマレーシア社会の中では立派に家庭を持って生活していることに気づかされた。

「海外勤務で大切なことは、多様な文化・習慣の中で育った社員一人ひとりに合わせて、仕事の指示・指導の仕方、そしてたしなめ方を配慮しなければならぬということです。彼らを大切に育てることこそが、事業の成功につながり、その地域を活性化させることにつながります。その精神を経営者側が学んでいく必要があるということだったのです」

日本人であることに誇りを持つ

海外で仕事をするうえで大切なことは何か、桑原さんに尋ねてみた。

「日本にいて、日本の伝統や文化に対してとりわけて注意を払うことはないと思いますが、ひとたび海外へ出ると、日本人以上に日本のことを知っている外国の人と出会う機会が多く、いつも驚かされます。日本についてよく質問も受けますが、うまく説明できなかったり、間違ったことを教えてしまったりするのは恥ずかしいこと。日本人であるという意識もさることながら、知識においても、常に日本を代表して相手に接する気持ちになることが大切です。海外に行くことで日本をより深く知り、そして日本がより好きになります。大切なことは、常に日本人であることに誇りを持つということです」



日本人としての誇りを持ち、大儀のある仕事に取り組みたい。

また、日本には「出る杭は打たれる」ということわざがあるが、桑原さんは海外にも同様の風潮があると指摘する。

『「出る杭は打たれる」というと、ネガティブなイメージに捉えられると思いますが、見方を変えると、『打たれる人をより強くしてくれる』というふうにも取れますよね。上司や周りの人に自分の意見に対して否定的な反応を返されたとしても、そのまま諦めたり、考えを変えたりするのではなく、本当にその主義主張が正しいと思うのなら、どのようにすれば相手を説得できるかと、物事をより深く考えるようになる機会であると捉えたほうがいい。それを乗り越えられれば、もう誰もその杭は打たなくなります」

さらに、海外で出会う日本人のビジネスパーソンについて、男性の多くは日本の企業から派遣されているが、女性は現地の企業で採用されている場合が多いと言い、「外国で働くために求められるたくましさに関しては男女の差はないのですが、日本はまだ男性を優先して採用したり、幹部候補にしたりしている印象があります。優秀な日本の女性が海外の企業に流出することは由々しき問題です。それを防ぐためにも、女性の活用を意識的に取り組んでいきたいですね」と話す。

熱意を持って取り組む人の生存に役立つ仕事

現在、桑原さんが関わるチームは、外務省・経済産業省やJICA（国際協力機構）・JBIC（国際協力銀行）・NEXI（日本貿易保険）・JETRO（日本貿易振興機構）といった機関と協力してイラクの戦後復興を目指し、原油生産時に生成される随伴ガス*2を有効利用するための開発を行っている。

「この事業に携わることで、イラクの戦後復興支援として現地の人々の役に立っているという達成感を強く感じます。バグダッドは歴史のある街。現地の人々も日本人同様、プライドを持って非常によく働いてくれます。2009年に軍用ヘリコプターで初めてイラクに降り立ったとき、現地の子どもたちが物めずらしげに周りに集まってきましたが、私たちが持っている弁当や飲み物を欲しがらなかった。子どもながらプライドの高いイラク

の国民性を垣間見ることができた瞬間でした」40年にわたり、エネルギー開発事業でマレーシア・ブルネイ・アメリカ・オーストラリア・ロシア・オマーン・ガボン・アンゴラ・英領北海・インドネシア・カナダ・パプアニューギニア・ドバイ・イラクなど、さまざまな国・地域で活動してきた。

「大義のある仕事に情熱を持って取り組んでいる以上、どんなに危険な土地に行っても怖くはありません。JICAの前理事長で現在特別顧問をされている緒方貞子さんは『あなたを必要としている国があればすぐにでも行きなさい』とJICAの職員におっしゃっていました。2050年には地球上の人口が95億人を超えると言われてます。私にとって大義のある仕事とは、人口・食料・エネルギーなど、人の生存の役に立つ仕事だと考えています」と桑原さんは語る。

まずは行動あるのみ ハングリー精神でいこう

「現在の日本はデフレで昔のように給料が右肩上がりではなく、生活に関する価値観も多様化しています。自分が望めばインターネットやメディアを通してさまざまな情報を手に入れることができ、進路についても、あらゆる方面から検討することができる。しかしその一方で、選択肢が多過ぎて、その結果としてひとつのことに集中して打ち込むことができなくなってしまう例が多いのではないかと桑原さんは現状を分析する。仕事の傍らマレーシアの日本人学校の理事長をしていたときのことを回想して、こう話す。

「マレーシアもアジアの中では自然に恵まれ、経済も豊かな国ですが、若者は総じてハングリー精神に欠けていると感じます。若者には、わからないなりに何かひとつのことに真剣に打ち込んでほしいですね。まずは行

動を起こすこと、自分をあえてハングリー精神の中に追い込むことが大事だと思います」

成功体験を積み重ねれば英語が好きになる

グローバル人材の育成が社会的にも求められるなか、日本の英語教育に対して桑原さんは、自身の体験に基づき、学習の目的を「コミュニケーションの手段としての英語の習得」と明確にすることが大切だと話す。

「将来英語を使った仕事に就く生徒にも就かない生徒にも、英語が何のために必要なのか、英語ができると将来どのように役に立つのかということ、指導者の方々ができる限り明確に伝えてほしいです」

桑原さん自身も、中学・高校時代に学校のテストでは苦労した英語だが、それまでに培ってきた英語力の証しとして、社会人になってから英検1級にチャレンジし、取得した。

「テストの成績だけではありません。苦手な科目や分野でも、経験したり体験したりしながら『できた!』『わかった!』という成功体験を積み重ねることが大切。生徒が細かい文法などにとらわれすぎて、本当の意味でのコミュニケーションの大切さを見失わないように導いてあげれば、彼らは英語が好きになり、英語が得意になるはずですよ」

また、若い世代へのアドバイスとして「若い時代、できれば時間のある学生時代に、自分と異なる価値観や文化を持つ環境に身を置くことが大切だと思います。長期でも短期でも留学を経験するのはよいことです。たとえその機会がなくても、留学生が集まる会合に積極的に出かけるなどすれば、国内でもいろいろな体験ができると思います。英語は必要に迫られれば、おのずと身につくものです」と話す。「自分を追い込んだ先で自分なりの大義を見つけて、そこに情熱を注ぎ込むことができればいいと思います。そういう人材育成の助けを私も続けていきたいですね」。

幼少期から3度にわたる海外での生活を体験し、社会人になってからもさまざまな国や地域で長く生活してきた桑原さん。英語の知識や流暢さだけでなく、異文化や人種・宗教などの多様性に対する理解の深さや寛容性、日本人としての誇りや日本に関する知識などを兼ね備えた現役のグローバルリーダーからの言葉は、とても意義深いものであった。

*1
ラルフ・ネーダー：(1934 -) コネチカット州・ウィンステッド出身。プリンストン大学およびハーバード大学ロースクール卒業。アメリカの弁護士。社会運動家。

*2
随伴ガス：油層から生産される原油中に溶解していて、地表で分離されるガス。

英検1級の合格証書とともに



桑原徹郎（くわばらてつろう）

1951年生まれ。東京都出身。早稲田大学法学部卒業後、三菱商事入社。現在、同社エネルギー事業グループ常勤顧問。これまでにマレーシアや中東を含む多くの国や地域で、石油よりもエネルギー効率が高く二酸化炭素放出量が少ないLNG（液化天然ガス）の安定供給をするためのプロジェクトに数多く携わる。

私の米国留学

アメリカ留学も **IELTS** の時代へ

～ IELTS はアメリカの約 3,000 の大学・プログラムで認定されています～



可能性を最大限に広げてくれる 充実した環境にひかれました

豊かな学習環境で 自分の力を試したい

父の仕事の関係で中1の夏からアメリカで暮らし、現地校に通っていました。高校卒業後は帰国子女枠を使って日本の大学を受験しようと考えていましたが、アメリカと日本の大学では設備や資源にあまりにも差があると感じ、がく然としました。そこで、理系を希望していたこともあって、自分の可能性を最大限に伸ばせるのではないかと、アメリカの大学に進学することを決めたのです。

ジョージア工科大学は州立大学とは思えないほど設備に恵まれ、研究も盛んに行われているため、学部生のうちからさまざまな可能性が広がっています。アトランタのミッドタウンに位置し、都市の便利さと大学らしい落ち着いた雰囲気兼ね備えていること、日本に似た気候であることも決め手になりました。

学生の夢の実現を 応援するシステム

入学して3カ月ほど経ちますが、やはり素晴らしい環境だと日々実感しています。

キャンパス内にある 'Invention Studio'

という施設には、3Dプリンターやウォータージェットなどの機械が設置されていて、全生徒が無料で使用することができます。ジョージア工科大学には発明や起業に対する意欲が高い学生が多いのですが、そういった志を全面的にバックアップするシステムが整っていることに感激しました。

州立大学でありながら、こうした研究への投資や施設の改善などを可能にしているのが、卒業生による寄付金です。私は、在校生に寄付の大切さを広める活動をする団体に所属しているのですが、卒業生と在校生の関わりをつくる団体ともパートナーシップを組んで、在学中から母校に寄付することを経験してもらえようイベントなどを企画しています。



女子のアメフト試合では男子がチアリーダーに。



好きな植物学を究めるために ゼロからのスタートを決断

日本の大学生生活を経て アメリカで再出発

高校生の時点で、自分が将来何をしたいのか決められないまま日本の大学に進学しましたが、正直なところ、その学部があまり好きにはなれなかったのです。それをきっかけに留学を考え始め、2回生のときには、父の母国であるアメリカで、植物学を学ぶために一からやり直そうと決意しました。

日本の大学を卒業後、カリフォルニア州立大学スタニスラウス校で学士課程をやり直し、現在通っているカリフォルニア大学デービス校博士課程に入学しました。ある程度の英語は話せたので、言葉に不自由しないアメリカを選び、父の友人が多く住んでいるカリフォルニアの大学なら、両親も安心してくれるだろうと考えたのです。

世界レベルの研究環境で 好きな学問を学ぶ喜び

カリフォルニアには非常に多くの人種の方が住んでいて、初めは驚きました。例えば大学の食堂にいても、隣には黒人の男子学生、向かいには白人の女子学生、目の前にはイン

ド系の年輩の方が歩いている、といった感じで、日本ではまずありえない日常風景が広がっています。こうした環境のなか、誰一人知り合いがいなくてスタートして、生活の基盤や人間関係を築いていく過程そのものが、貴重な経験だと思います。

カリフォルニア大学デービス校は植物学の分野で世界的に有名で、ここで世界トップレベルの研究に触れてみたいと思い、入学しました。他の大学の植物系プログラムに比べて、受講しなければならない科目が非常に多いのが特長です。私の専門は植物の進化ですが、植物生理学、植物生化学など植物学に関わる基礎的な学問分野まで幅広く学ぶことができ、とても満足しています。



研究室のミーティングで、仲間とともに。

多くの日本人学生が、未来に大きな夢を描き、アメリカの大学や大学院に留学している。彼らはどのような生活を送り、どのようなことを学んだのだろうか。その十人十色の体験談は留学を考える読者のみなさんに、たくさんのヒントと勇気を与えてくれるだろう。

才能ある仲間と出会い 学問を追究する日々

アメリカではネットワークづくりの大切さがよく言われますが、人種や出身、専攻など、さまざまな背景を持つ学生と関わることで、異なる考え方を学ぶことができ、才能あふれる仲間との出会いにも恵まれました。学びのスタイルも多様で、授業とインターンを交互に行い、3セメスターを就労体験にあてる学生も。学部生の約4割が留学やインターンなど海外経験を持つことも特長のひとつです。

私は化学工学を専攻していますが、化学と数学の知識を使って問題を解決していくおもしろさにひかれます。エネルギー、化学製品、製薬など、社会に欠かせない幅広い分野に生かすことができる学問です。まずは見識を深め、興味のある分野を明らかにするためにも、インターンや教授の研究に参加できる機会を探している毎日です。



入学式には RAT Cap という黄色い帽子を配る。

ジョージア工科大学
寺田優理さん

東京都出身。13歳で渡米。現地高校を卒業後、ジョージア工科大学化学工学部へ進学。趣味はソフトボールと写真撮影。アメリカに7年滞在して日本のよさを実感したという。



寺田さんに一問一答！

Q 留学して成長したと思うことは？
積極的に自ら行動するようになったこと。大学では、著名な教授や卒業生にお会いする機会がありますが、物怖じせず自分からアプローチしてチャンスを探っていく、必ず得るものがあると信じています。

Q 実りある留学にするための秘訣は？
目的を忘れないようにすることです。留学中はさまざまな課題やイベントに追われるように過ごしがち。でも、短期と長期の目標を決めて、一日一日を大切に過ごすことが、シンプルではありますが、大事なことだと思います。

Q 留学を目指す読者にアドバイスを
ランキングやブランドに惑わされず、多くの学校に目を向けてください。その大学で「何をやるか」が重要。キャンパスを訪れる機会があればぜひ活用して。実際に大学に触れてこそ、初めてわかることがたくさんあります。

いつか日本で研究職に 夢に向かって邁進

研究対象として日々向き合っている植物ですが、実際に育てる機会もあります。地元の高校の畑を耕し、近隣のスーパーや種苗店から苗を譲ってもらって花や野菜を植え、畑を再生するボランティア活動をしていたのです。今年はこの再生された畑を使って、高校生たち自ら、授業で使うための野菜を育てているということです。

博士課程を修了したら帰国して、日本で研究職に就きたいと考えています。そのために今自分がなくてはならないことは「研究に集中すること」の一語に尽きるでしょうか。ただし、日本で開催される学会には積極的に参加して、日本の研究者たちと少しでもつながりを持つことができれば、今後の大きな糧になるのではないかと考えています。



自宅で友人たちと、にぎやかに夜ごはん。

カリフォルニア大学デービス校
辻井 快さん

京都出身。日本の大学を卒業後、カリフォルニア州立大学スタニスラウス校学士課程に学び、カリフォルニア大学デービス校博士課程に進学。研究の息抜きに料理もたしなむ。



辻井さんに一問一答！

Q 留学して成長したと思うことは？
いろいろな意味で自立できたこと。これは「他人を頼らない」とは違います。すべてを一人でこなそうとするのではなく、何がいつまでに必要なかを判断して、助けが必要なら、誰かに頼むこともできるようになりました。

Q 実りある留学にするための秘訣は？
目標を持って留学に臨むことが大切。留学中に勉強するにしても遊ぶにしても、その結果に意味を持たせることが重要です。「ただ何となく過ごす」ことのないよう、心がけたいものです。

Q 留学を目指す読者にアドバイスを
彼氏・彼女と会えずに別れる、親に重い金銭的負担をかける、日本の友だちと疎遠になる、親族の死に目に会えない——どれも長期留学には起こりうることです。留学と天秤にかけているものが何であるかをよく考えたいうえで、覚悟と決意を持って臨んでください。

文部科学省に聞く

「グローバル人材」育成のゆくえ

日本の社会は今、グローバル人材を求めている。英語だけでなく、日本の文化も異文化も知り、世界の中で強く生きることができる若者だ。そのためには大学と大学生の国際化が欠かせない。どうすればスムーズに実現できるだろう。文部科学省の考え方と取り組みを聞いてみた。

日本の社会が待ち望む
グローバル人材の活躍

昨今の日本では、経済、金融、ビジネス、そして教育といった文脈においても、「グローバル化」あるいは「グローバリゼーション」という言葉が盛んに飛び交っている。

「グローブ」(globe)とは「地球」のこと。転じて「世界」とも訳される。お金、モノ、人、情報などが、国や地域の境界を越えて地球規模で流動し、経済的、社会的、ときには文化的な変化まで巻き起こすのが「グローバル化」だ。

ヨーロッパでは、EUを中心にボーダレス化が進んでいる。アメリカにやって来る留学生の間では、卒業後、母国にもアメリカにも執着せず、第3の国に活躍の場を求める人も増えている。

少子高齢時代に突入した日本ではどうだろう？ 企業は世界の市場に活路を求め、メーカーのみならずサービス業のなかにも、海外での事業展開に乗り出す企業が次々と出てきている。就職活動のなかで、「あなたは将来、外国で働く覚悟はありますか？」という質問が今以上に重みを持つようになる日は、そう遠くないかもしれない。

「日本の企業の幹部クラスにも、外国人がどんどん入ってきています。一見、海外とは無関係に思える会社でも、外国人の上司や同僚と働くことになる可能性が、絶対にはないとは言えない時代です。好むと好まざるに関わらず、グローバル化は進んでいくでしょう。こうした変化を受け止め、日本の未来を力強く切り拓く人材が、今こそ求められています」

こう語るのは、文部科学省の有賀理さん。高等教育局高等教育企画課の、国際企画室長

である。

「文部科学省でも、次の時代を背負って立つ、真のグローバル人材の育成に取り組んでいます。単に英語に堪能といったことではなく、専門性、タフさ、日本人としてのアイデンティティなどを兼ね備えた若い人材を、できるだけ多く育てていきたい。そのために、大学のグローバル化に力を入れているところですよ」

今こそ対応が急がれる
大学のグローバル化

グローバル人材の育成に向けて、現在、文部科学省が実施している施策には2つの大きな柱がある。ひとつは学生の国際化支援であり、もうひとつは大学の国際化推進に関する取り組みだ。その中心となる4項目について有賀さんに聞いた。

1 優秀な外国人留学生の
戦略的な受け入れ

グローバル人材育成の大前提として、大学が国際的で世界に開かれた場であることは欠かせない。そうした環境を実現するために、文部科学省が最初に取り組んだのが、外国人留学生の戦略的受け入れであった。

「大学の国際化を考えるにあたり、各方面から指摘されたのは、諸外国と比べて我が国の大学には、外国人の学生や教員が少ないということです。そこでまず、留学生をもっと積極的に受け入れようということになりました。留学生が増えれば、大学の受け入れ体制が整備されます。外国人学生がもたらす多様な価値観や考え方に触れ、教職員や学生の意識も変わってくるでしょう。結果的に、大学

全体の国際化が進むと考えたのです」

外国人留学生の受け入れ促進には、さまざまな期待が寄せられている。日本の大学を卒業した留学生が、それぞれの母国の発展に貢献する人材となれば、国際協力としても意義がある。親日的・知日的な留学経験者を架け橋に、日本と諸外国との関係も向上するだろう。政府は2020年までに、留学生の受け入れ数を30万人に倍増する計画だ。

「地域戦略枠の創設により留学生の受け入れ拡大を図り、奨学金等の充実を含む幅広い支援を行っていきます。優秀な学生や研究者が世界中から日本に集まるよう、各大学にはぜひ魅力あるプログラムをつくっていただきたいと思っています」

2 日本人学生の海外留学も
バックアップ

外国人留学生を受け入れるだけでなく、日本の学生も積極的に世界に送り出す必要がある。国は、「能力と意欲ある若者全員に留学の機会を与え、これをバックアップする」としている。

具体的には、奨学金の拡充により留学経費の負担軽減を図る。大学や企業等との連携で、必要な各種研修を実施する。こうしたことを含め、日本の若者の留学をきめ細かく支援できるよう、官民協力して進める新たな制度づくりを目指している。

一方、「英検、IELTSなどといった英語力測定テストで、所定のスコアやレベルに達する学生を一定教育する」「卒業までに留学を経験する学生が一定の割合に達するよう努める」など、明確な成果目標を立てて臨むことが大学側には求められている。こうした取り組み

に対して文部科学省は、外国人教員の雇用、英語の授業の高度化、留学プログラムの構築等への支援を行っていくとのことだ。

3 海外との連携で促進
教育プログラムの国際化

海外大学と連携することで、教育プログラムの国際化を図る試みも始まっている。「大学の世界展開力強化事業」がそれで、対象エリアごとに展開している。

そのひとつ、「キャンパス・アジア」は、日中韓の3カ国の政府が合同でつくったガイドラインの下で、学生の交流を進めようというもの。日中韓の学生が、日中韓3カ国の大学で、それぞれ同じ期間ずつ講義を受け相互に学び合うなど、大学が提案するプログラムは、1つのコンソーシアムに必ず日中韓の大学が参加する形をとることになっている。

「キャンパス・アジアと同様の事業は、アメリカ、ヨーロッパ、ASEAN諸国との間でもスタートしており、平成26年度にはロシアやインド等の大学との間でも、大学間交流形成支援事業が始まる計画です。またASEAN諸国では、域内の学生の交流を行うAIMSプログラムを展開していますが、本年度から域外で初めて日本の大学からも、このプログラムに参加することになりました」

4 世界に貢献できる
トップレベルの大学を

教育プログラムのみならず、大学の体制自体の国際化を促進する目的で、「グローバル人材育成推進事業」を実施している。これには学生の海外派遣や、語学力・コミュニケーション力を向上させるための体制づくりなど



有賀理さん 文部科学省 高等教育局 高等教育企画課国際企画室長

グローバル人材育成に向けた文部科学省の取り組み

(平成26年度概算要求の主な内容)

◆大学教育のグローバル展開力の強化

(1) 大学の体制の国際化

◎スーパーグローバル大学事業

制度改革と予算を総動員し、グローバルトップ大学を徹底的に国際化(30大学選定)

◎グローバル人材育成推進事業

学生の海外派遣や語学力・コミュニケーション能力向上のための体制整備(42大学選定)

(2) 教育プログラムの国際化

◎大学の世界展開力強化事業

質の保証を伴った学生の双方向交流プログラムの開発・実施

- 「キャンパス・アジア」中核拠点形成支援
- 米国大学等との協働教育創成支援
- 海外との戦略的高等教育連携支援
- ASEAN諸国等との大学間交流形成支援
- ロシア、インド等との大学間交流形成支援

◆大学等の海外留学支援制度の創設等

意欲と能力ある若者全員に留学機会を付与し、世界に勝てる真のグローバル人材を育てるため、奨学金の拡充や大学・企業との連携による研修等を官民の協力で実施

[長期派遣] 200人 → 500人
[短期派遣] 10,000人 → 32,000人
[短期受入] 5,000人 → 10,000人

◆優秀な外国人留学生の戦略的な受け入れ

留学生30万人計画を達成するため、奨学金等の拡充、現地で入学許可を出す仕組みづくり、「地域戦略枠」の創設による受け入れ拡大、卒業後の就職支援などを促進

- 留学生の受け入れ環境の充実(国費留学、学習奨励費など)
- 国内外での情報提供および支援の一体的な実施

日本が目指すスーパーグローバル大学

タイプA

世界トップクラスの大学

大学教育の国際標準化、研究力向上につながる教育力の最大化を図り、世界の大学ランキングでトップ100内に入る大学、世界をリードする大学を育てていく。

タイプB

グローバル化を牽引する大学

教育環境の国際化推進など、これまでの実績をもとに、さらに先導的な試みに挑戦し、日本社会のグローバル化を牽引する大学を支援。海外大学との先駆的な教育連携、大学教育のグローバル化モデルの構築、世界基準の教育展開などが期待される。

も含まれる。

平成26年度からは、新たに「スーパーグローバル大学事業」が始まる予定だ。30大学程度を選定し、制度改革と予算を総動員して徹底した国際化を図り、グローバル人材の育成と、世界のトップレベルにふさわしい大学づくりを目指すという。

「充実した環境で教育研究ができる大学には、世界中から優れた研究者や学生が集まってきます。こうした大学の存在は、それ自体が日本の国力につながりますし、そこから生み出される研究成果を通じて、世界に貢献することもできるのです。この事業の対象となるプログラムには、『こうあるべき』は存在しません。各大学から自由な発想で、多様なプログラムが出てくることに期待しています」

グローバル化の一方で日本の独自性も守りたい

日本に先んじて大学の国際化に邁進してき

た韓国では今、英語で書かれた教科書を使い、英語で講義を行う大学が続々と増えている。日本でも私立大学においては、英語で講義を行うプログラムを導入する大学や、一部では、英語による講義だけで学位が取れる大学も出てきている。

こうした動きについては、留学生や帰国子女が日本で学びやすくなる、日本人学生も授業を通して高度な英語力が獲得できるなど、歓迎する声があるいっぽうで、この傾向が進めば自国文化が失われかねないと危ぶむ声もあがっている。

英語による講義の拡大をどう考え、大学の国際化と国の独自性のバランスをどう取るか。自国の文化を常に強力に保護してきたフランスでも、大論争となっているテーマだ。

「韓国でも同様です。英語による講義に偏り過ぎた結果、このままいくと、母語である韓国語で学問を究める体系が、崩壊するのではないかという議論が起きています。私が話

した韓国の識者は、『博士課程まで含めた高等教育を、日本語だけで提供できる体系を維持している日本がうらやましい』とまで言っています。諸外国の例も参考にして、慎重に進めていくべき課題かもしれません」

グローバル化と日本の独自性を両立させつつ、個々の大学が特色あるプログラムを打ち出し、そうした個性や特色を学生が比較して、学びたい大学を決められるようになることが、最も望ましい形なのではないだろうか。

一度は日本を飛び出し世界の多様性を知る経験を

日本の大学は、グローバル化に向けて舵を切り始めた。ではグローバル化社会に生きる私たちは、個人としてどう備えたらよいのだろうか？

有賀さんが勧めるのは、「1週間でも2週間でもいいから、若いうちに外国へ出て、自分の目で世界を見る」こと。それもただの海外旅行ではなく、現地の人ときちんと向き合って話をするような環境に身を置くことが理想だ。国際社会でどう生きるかを考えるうえで、世界の多様性に触れることは、またとない刺激になるという。

どの大学でも、留学プログラム以外に、海外との交流プログラムやボランティアツアーなど、学生が日本の外の世界を知るための、さまざまな機会を用意しているの、そうした機会を利用するのもよい考えだ。特にアジ

アの国々は日本からの距離も近く、人々の容貌や考え方もアジア人同士で共通する部分がある。気になる英語も、互いにネイティブスピーカーではないことで、かえって気負わず交流できるのではないだろうか。

英語については、コミュニケーションツールに過ぎないとよく言われる。確かに「言葉」は目的ではなく、手段に過ぎない。しかしグローバル化が進む社会では、英語が理解できない時点で、活動範囲が限定されてしまう事態もおおいにありうる。

「自分は理系で、英語は苦手という人もいるでしょう。しかし理系の人材を必要とする仕事の場合、ますます世界に広がっていくと思われる。試験のためではなく、将来自分の専門分野で十分に活躍するために、理系の学生も大学時代に英語力を培っておきましょう」

そういう有賀さんも実は理系の出身だ。技術系として当時の科学技術庁に入省し、その後、一念発起してアメリカの大学院に私費留学。帰国後の道が約束されないリスクを押し、経済学の博士号を取得した経歴の持ち主である。就職活動への不安から、チャンスがあっても留学に踏み切れない今どきの若者に、リスクをとって冒険する勇気を期待したいと語ってくれた。グローバル化をどう捉え、その先にどのような未来図を描くのか。それを決めるのは、私たち一人ひとりの意識にかかっているとさえいえる。

世界基準のビジネス英語能力テスト

BULATS

The Business Language Testing Service

日本でも約400の企業・団体が採用!

●三井物産 ●住友商事 ●三菱重工業 ●商船三井 ●メルリリンチ
●日立製作所 ●ユニリーバ・ジャパン ●エーザイ ●日本電気 ●富士通
●伊藤忠テクノソリューションズ ●ヒルトンホテル ●旭硝子
●横河電機 ●リクルートホールディングス ●毎日コミュニケーションズ
●日産ディーゼル工業 ●長瀬産業 ●オリジン電気 ●サントリー
●PFU ●富士通オートメーション ●富士通ラーニングメディア
●ヤンマー ●シェーンコーポレーションジャパン ●JAC Japan
●カネカ ●ブリティッシュ・カウンシル ●マースク ●佐川グローバルロジスティクス
●日本テキサス・インスツルメンツ ●マーレエンジンコンポーネンツジャパン
●ニフコ ●ユーロクリア・バンク ●ネスレ日本
●全日空商事 ●大日本住友製薬 ●バイオ・ラッドラボラトリーズ
●ジャパンフード ●アマゾンジャパン ●アイ・アム ●早稲田大学理工学部
●広島大学 ●熊本大学 ●京都大学 ●神戸大学ESS 他多数

世界と繋がるために

Are you sure your message is getting through?

BULATS
Fast, reliable,
and global

Standard Test

リスニング/リーディング/語彙問題

¥ 2,900 (税込み)

Computer Test

リスニング/リーディング/語彙問題

¥ 2,900 (税込み)

Speaking Test

ネイティブ試験官との対面式

¥ 6,900 (税込み)

Writing Test

記述式

¥ 3,900 (税込み)

詳細は

<http://www.eiken.or.jp/bulats/>

お問い合わせは

Tel : 03-3266-6366 Email : stepbulats@eiken.or.jp



UNIVERSITY of CAMBRIDGE
ESOL Examinations

BULATS(ブラッツ)は、公益財団法人日本英語検定協会と英国ケンブリッジ大学の語学試験機関であるケンブリッジ英語検定機構が共同開発したテストサービスです。



Vol.21 by Mami Maruko

英字新聞記者の視点

日本のニュースを英語で発信しよう

日本で起こっていることを外国人に伝えるときは、物事の背景を理解し、わかりやすく説明するスキルが求められる。英字新聞 The Japan Times の記者に、日本の「今」を世界に伝えるためのコツを教えてください。

今月の記者 丸子真美さん

1998年ジャパンタイムズ入社。報道部/生活文化部に所属し、社会のトレンドや外国人コミュニティ、また駐日大使インタビューを担当。

Topic 01

駐日ベナン大使は元タレント

Beninese Ambassador Zomahoun Rufin, officially representing the West African country in Tokyo since 2011, has a unique background – he used to be a TV “talent” who gained popularity on variety shows here in Japan.

駐日ベナン大使のゾマホン・ルフィンさんは、2011年より東京で公式にこの西アフリカの国の代表を務めているが、変わったバックグラウンドを持っている一元テレビタレントで、ここ日本においてバラエティ番組で人気を博したのである。

『ここがヘンだよ日本人』一躍人気を集める

西アフリカのベナン共和国という小さい国から来た、ゾマホン・ルフィンさんをご存じでしょうか。10年ほど前、現在は映画監督として知られる北野武ことビートたけしさんが司会を務めるTBS系のテレビ番組『ここがヘンだよ日本人』にレギュラー出演し、大きな声と独特なジェスチャーで、一躍人気を集めたのです。その後、フジテレビ系の『笑っていいとも』にも出演、顔に見覚えのある人は多いのではないかと思います。

ゾマホンさんは、日本で得た人脈や資金を生かして母国に学校を建設、その功績などを買われ、現在、ベナンの駐日大使を務めています。私はThe Japan Times紙で継続して行っている駐日大使インタビューの一環として、ベナン大使館のゾマホンさんを訪問しました。

「勉強するのが楽しくて仕方がない」

外国大使というと、比較的恵まれた環境のなかで育ってきた人が多いのですが、ゾマホンさんは母国で貧しい家庭に育ち、学校を出るのにも苦労したとのこと。奨学金を得て中国に留学、そこで知り合った日本人の友人の父親の援助により、日本で日本語学校に通うようになりました。2年後、上智大学に入学、博士課程にまで進み、卒論は現在も執筆中とのこと。

テレビに出るようになる前、ゾマホンさんは学費を稼ぐため3つのアルバイトを掛け持ちするという忙しい生活を送っていました。そんななか、ラーメン屋さんで食事をしていたときにたまたまテレビ局のプロデューサーに声をかけられ、テレビ出演の話をもちかけられたのです。「1回の出演料が1万2000円と聞いて、すぐに『やります!やります!』っ



駐日ベナン大使のゾマホン・ルフィンさん / Yoshiaki Miura

て答えました。そのころのバイト料からしたら、夢のような金額だったんです。

タレントとして成功する傍ら、出版した本がベストセラーとなり、ゾマホンさんはその印税を母国での学校建設にあてました。「ベナンでは、小学校を終えることのできない子どもが多く、70パーセントの人は公用語であるフランス語を書いたり話したりすることができません。日本よりも教育がはるかに遅

れているんです。

ゾマホンさん自身、日本に来てからずっと学校・大学で勉強を続けていますが、「勉強するのが楽しくて仕方がない。ベナンでは思うようにできなかったから」と話していました。一人でも多くの母国の子どもたちに勉強することの楽しさを知ってもらいたい、という熱い思いをゾマホンさんは持ち続けています。

*参考記事 2013年10月1日号掲載

Topic 02

コンビニの宅配サービスが人気

A relatively recent service being offered by convenience stores is local home delivery. The delivery services of major chains including Seven-Eleven and FamilyMart are increasingly catering to the needs of working mothers and the elderly.

コンビニエンス・ストアで最近拡大してきているサービスとして、地域の宅配がある。セブン-イレブン、ファミリーマートなどの大手チェーンの宅配サービスは次第に、ワーキング・マザーや高齢者のニーズに応えるものとなりつつある。

ワーキング・マザーや高齢者に人気

コンビニエンス・ストアでは食べ物や日用品を買うだけでなく、ATMでお金の出し入れをしたりコンサートのチケットを手に入れたり、次々と新しいサービスを利用することができるようになっています。

そんななか、コンビニ各チェーンが最近力を入れているのが、宅配サービスです。コン

ビニのカタログから商品を注文し、自宅または店頭で受け取るというサービスは1990年代後半からあったのですが、この1月、ローソンは、Yahoo! Japanと提携して、主にワーキング・マザー向けの新しいサービス「スマートキッチン」を始めました。

「スマートキッチン」は、ハンバーグや麻婆豆腐などの材料や調味料をセットにし、自宅で簡単に調理するだけでおかずができあがる商品を、週に1回定期的に届けるものです。

食材と一緒に、トイレペーパーや洗剤などを注文して届けてもらうことも可能です。

セブン-イレブンも、「セブンミール」という食事の宅配サービスを行っています。例えば、500円の日替わり弁当を1日1食から注文することができます。こちらもミネラルウォーターやお米など、重くて持ち歩くのが大変なものと一緒に届けてもらうことができ、高齢者の方に人気があるそうです。

安心感を与える顔の見えるサービス

宅配のメニューは、有機野菜や無添加、保存料なしの食材を使う、油や塩分を控えめにし、健康に配慮するといった工夫もされています。注文するほうは、カタログを見てカロリーや塩分、使われている材料などを確認してから買うことができます。

また、今、コンビニには各チェーンが独自に開発したプライベートブランドの商品が増えていて、質のよい食品や日用品が比較的価格で提供されています。買う側としては、

宅配によってこういったお得なプライベートブランド品をまとめて買うことができるという利点もあります。

さらに、セブン-イレブンによると、スーパーなどの宅配サービスと異なり、コンビニの宅配では最寄りのコンビニの店員が配達を行っているので、普段店頭で顔を見たことのある人が来てくれ、「安心感」が得られるとのこと。例えば、近所のコンビニに行ったついでにお弁当やミネラルウォーターの配達を頼むと、見たことのある店員さんが、自宅に届けに来てくれるということもあります。ファミリーマートの宅配サービスでも、店員が配達ついでに高齢者の様子を見ていたりするそうです。

一人暮らしの高齢者も増えているなか、顔見知りの方が度々家に来てくれるというのは、貴重な機会だと思います。コンビニの宅配は、単に新しい便利なサービスというだけでなく、コミュニティの中でのコンビニの新しいあり方につながっていくのかもしれない。

*参考記事 2013年10月7日号掲載



This month's selections from The Japan Times

～ 英文記事を読んでもよう～

Find true love on the run at a jogging party

How do you find true love in Japan these days? The answer lies not so much in your heart, but on your feet

JUN HONGO
STAFF WRITER

The first person to turn up at the meeting spot for the jogging-kon (jogging matchmaking party) — other than myself — is a 24-year-old male still dressed in his business suit.

"I'm a bit early but is this where I should check in for the jogging party?" he asks, bearing a slight resemblance to soccer player Atsuto Uchida.

It's 6:25 p.m. on a Wednesday night. The event doesn't even kick off until 7 p.m.

After changing into his jogging gear, the man I'll call "Uchida" begins to stretch beside me. I decided to get straight to the point. "Is this the first time you have attended a jogging party?" I ask. "Do you run on a regular basis?"

"This is my first time," Uchida replies. "A colleague of mine recommended it to me. I run almost every day, maybe about 10 km."

He confesses that he hasn't had a girlfriend for about six months. In any case, Uchida says with a wry smile, his female co-workers are mostly in their 40s and 50s.

There are a variety of jogging parties, but the one I am taking part in is conducted in a relatively simple format. Participants are asked to form a line according to gender and jog around the 5-km course around the Imperial Palace in

Tokyo, taking turns to chat with a potential partner at the same time. Each pair has eight minutes to talk to each other before they are required to move on to someone else. There are eight men and six women participating on this night.

The 14 participants gather in a circle and began stretching at 7:10 p.m. The organizers then deliver a brief set of instructions.

"We'll run the 5 km in about an hour, so it won't be that tough," one of the organizers says. "Then we will return here and enjoy some free time before announcing if any matches have been made."

Standing beside me is a female participant wearing pink adidas shoes.

"Hey, how you doin'?" I ask. "Is this your first time?"

"Yes, this is my first jogging party," she replies, before asking me how old I was.

"I'm 35," I reply, but quickly wonder if I should have gone with 33 or maybe even 30. "How about you?"

"I'm 23," she says, and then giggles. "Just kidding! Ha! I'm 32."

Her generous smile creates a dimple on her left cheek.

We set off at 7:20 p.m. The pace is extraordinarily slow, and I'm beginning to wonder whether the event is actually a clear example of false advertising. Hardcore runners stare menacingly at our leisurely group as they pass, but the jogging-kon participants are far too lost in conversation to notice.

There are only three or four topics that come up between most of the couples during their eight-minute exchange. The top two questions for the night are "How



Love on the run: Men and women who are participating in a jogging matchmaking party chat as they make their way around Tokyo's Imperial Palace in October. JUN HONGO

often do you run?" and "Is this your first time around the Imperial Palace?"

Then they would generally ask about their partner's job or which area in Tokyo they are from. By the end of those questions, the pace-setter running at the front will have instructed runners to change partners.

"I like jogging, but I also go scuba diving," one 27-year-old female tells me.

"This is fun. It's more natural than going to an omiai meeting," she says, referring to a formal traditional custom in which unattached individuals are introduced to each other to consider the possibility of marriage.

The 14 participants return to the meeting spot near the palace at 8:30 p.m., with each one looking livelier and much more relaxed. After a few minutes of stretching, however, the organizers pass out a pen and piece of paper. A ripple of tension suddenly spreads throughout the group.

The participants start sizing up the other members of the group, hopeful that this could be the night of that life-changing encounter. Further conversa-

tions take place. A woman speaks about her recent trip to Okinawa. A man talks about his experience running a full marathon. And all the while, the evaluation continues. The participants are then told to write down the names of three people they met over the evening that they liked. The ballots are then turned in.

The event ends at 9 p.m. sharp, with an announcement from the organizers that there were five matches. Uchida and the girl with dimples are one of them. The successful couples leave side by side and disappear into the streets of Tokyo, exchanging some last-minute details as they head for their respective homes.

The end result leaves me happy for the rest of the evening, safe in the knowledge that there are plenty of folk out there still trying to find someone special despite their overloaded work schedules. Three men and a woman walk away from the event alone but, judging from their demeanor, I am certain they will live to fight another day. If nothing else, at least they managed to squeeze some exercise in.

Government unpins Google Maps for top design prize

Official says Prime Minister's Award not withheld over use of rival claimants' names for islets

TOMOHIRO OSAKI
STAFF WRITER

In an unprecedented move, the government will not give the prestigious Good Design Grand Award to Google Maps even though it received the most votes, prompting speculation that officials did not want to reward the service because it includes contentious names for disputed islets claimed by Japan.

Spearheaded by the Japan Institute of Design Promotion, the annual Good Design Award has honored products, people and activities considered "well-designed" for more than 50 years.

An average of 1,000 entries receive the award each year, but only one gets the most prestigious Good Design Grand Award, also known as the Prime Minister's Award.

After being nominated for the top prize by judges and the public, the candidate is scrutinized by the government and usually is approved with no disagreement.

This year is the first time since the Prime Minister's Award debuted in 2007 that the government has refused to go along with the nominee that got the most votes.

In response, the Japan Institute of Design Promotion created a special award called Global Design 2013 and gave it to Google Maps. The institute lauded

Google Maps for showing continued improvement in its functionality, including navigation and the search system, noting the design is "user-friendly" and "well thought out down to the meticulous details."

"The maps themselves have existed for more than 10 years, but they have shown great adaptability in the advent of smart-phones in the past few years," said spokesman Jun Akimoto.

Speculation has been rife online that political interests were behind the snub. Media reports in September said the government urged municipalities and universities nationwide to refrain from posting maps provided by Google Inc. on their websites as its English references to some islands contradict Japan's ter-

ritorial claims.

Hideaki Ibuki, an official in the Ministry of Economy, Trade and Industry, denied that this played any part in the government's unusual refusal and said politics had nothing to do with it.

Ibuki instead said Google Maps garnered a lower than expected number of votes at 2,752, or 22 percent of the total, compared with the usual 25 percent. It also surpassed the second-most popular product, the Epsilon Launch Vehicle by the Japan Aerospace Exploration Agency, by a relatively narrow margin.

"We just went over those objective factors and decided that (Google Maps) didn't satisfy the standard criteria," he said.

Starting in 1957, the award has been considered the "only comprehensive system with which to assess" good design in Japan, the organizer says on its website.

グローバル企業訪問 | Vol.21 | 全日本空輸株式会社 ANA

確固たる安全と信頼を礎に 世界の空へさらなる飛躍を

日本国内で最大の路線網を持つ全日本空輸株式会社。近年は国際線の拡大に向けてアライアンス事業にも乗りだし、社内のグローバル化も加速しつつある。航空会社の使命ともいえる「安全」確保のために人材育成は、重要な経営課題のひとつでもある。

グローバル企業へ いよいよ本格始動

2012年12月、創立より60周年を迎えた全日本空輸（以下、ANA）。国内最大の路線網を誇り、さらにはアメリカ、アジア、ヨーロッパに33の拠点を持つ日本を代表する航空会社である。「世界を股にかける」という比喩が最もふさわしい企業だけに、他に先駆けて国際関係の業務や世界を相手にビジネス展開を充実させてきたイメージが強いのだが……。

「そういった印象を抱かれがちなのですが、本格的なグローバル展開はむしろこれからです」と話すのは、ANA 人財大学部長の潮田敏明さん。ちなみにANA 人財大学とは、「人を尊重し、人の可能性を信じ、人を大切に育てたい」との趣意により、2009年人事部から独立して設置された部署で、採用、教育、研修を担当する。

「今後のビジネス拡大の可能性として、国際線を中心に考えざるを得ないという背景があります。国際線旅客事業は今やアライアンス間の競争時代。ANA が加盟するスターアライアンスの競争力を高め市場を拡大するための業務も激増すると同時に、2011年からはユナイテッド航空と、翌年にはルフトハンザ航空とJV（ジョイントベンチャー）事業もスタートしています。こうした環境下で厳しい議論や交渉にも対応できる人材を早急に育成しなければならぬと考えています」

アライアンスの競争力を向上させるという

のは、例えば加盟会社間の乗り継ぎの利便性を高めるためにダイヤを調整したり、マイルプログラムなどの共通化を進めたり、空港内サロンなどの共同施設の充実を図ることなどにより、利用客の満足度を高め、アライアンスとしての付加価値をつくり上げ、ともに利益を得られるような事業を展開すること。このような作業を進めるなかでは、会社間でのさまざまな議論はもちろん、ジョイントベンチャー内部での利益分配をめぐる交渉や駆け引きも必要となってくる、という意味だ。

それに加えて、成田・羽田の首都圏国際空港における発着枠拡大によって、国際線路線の増加が予想され、そのチャンスを最大限に生かしてビジネスを拡大すべきタイミングが到来している。

かつてのANA では、海外赴任の機会、海外経験が豊富な一部の社員にアサインされることが多かったが、国際線増加に伴って就航地が増えると、当然、駐在員として赴任する人員も増やさなくてはならない。今まで海外経験のない社員であっても、初めての海外拠点において現地採用スタッフのマネジメントを担当しなければならないのだ。

全社員を対象とした 人材育成プログラム

以上のように、近年のANA はまさにグローバル企業化への促進を急激に進め、それを支えるための語学力と異文化理解力を持った社員の育成を急務としている。

そのためにまず手がけたのは、ANA グ

ループが求めるグローバル人材像とは何かを定義することだった。すなわち、「世界とたたかい、よく知られ、愛される」人材である。

最初の「世界とたたかい」とは、世界を市場とした競争の中で高い専門性を持って業務を遂行し、変革を推し進める力を持つこと。

次の「よく知られ」とは、世界中の多様な価値観の中においても他者とコミュニケーションをはかることができ、自社や自国のよいところを伝えることができる力。

そして「愛される」とは、異文化に対して高い理解力を持ち、多様な価値観を受け入れて尊重し、その環境下でいきいきと振る舞うことができる力を指すとのことだ。

このようなグローバル人材像に向けて実施されたのが「ANA Global Talent Program」。全社員を対象に、2011年から3カ年計画で行われた育成プログラムだ。

具体的な内容としては、海外実務研修員制度や留学制度などを通じて海外へ派遣する社員の数を拡大したり、異文化コミュニケーションセミナーによって社員の意識改革を促すなどのほか、スターアライアンス研修、ネイティブ社員による社内セミナーなど、幅広く展開している。

なかでも、日本人社員の語学力向上をはかるための施策として、英語能力テストの標準点を厳しく定め、全社員が2013年までにその点数をクリアできるように、毎月受験できる体制を整えてサポートする。また、もっと上を目指す社員に対しては、外国人語学講師による英語レッスンを用意。指名制と公募制が



ANA 人財大学部長の潮田敏明さん

あり、指名制では週2回4カ月の非常に厳しいプライベートレッスンを実施するなど、徹底したプログラムが進められた。

この「Global Talent Program」は2013年でいったん終了するが、グローバル人材の育成は今後もますます必要性が増すものととらえ、形は変化していくかもしれないが、これからも継続して行われる予定とのことだ。

採用は「人物重視」 これが ANA の伝統

もうすぐ定年を迎える管理職をも含めた全社員を対象に英語能力の基準を設けるほど「本気」でグローバル人材の育成に取り組むANAだけに、採用の際にも高い語学力を求められるのかと思いきや、実はそうではない。

「もちろん語学力は高いに越したことはありませんが、必ずしもスコアは問いません。あくまでも人物重視で採用します」と潮田部長。

「大切なのはコミュニケーション能力と異文化への理解・親和力。どんな環境に置かれても、相手が話すことをきちんと聞き、つたなくてもいいから自分の考えを伝えられること。これはずっと以前からANAの採用時に重視してきたこととそんなに変わっていません」

潮田部長はさらに、「努力できる人、伸びしろのある人」という人物像を挙げる。努力できる人は語学も必ず身につけられるはず。ANAでは内定者に対して入社時までに英語能力テストのクリアすべき基準を指示し、教材を渡して育成をスタートしている。

「今までにどんな目標を掲げてそれに挑戦し努力してきたのか、学生時代にはどんなハードルを乗り越えてきたのか。面接ではそんな経験をお聞きしたいと思っています」

環境変化の多い航空業界で 働くための心構えとは

航空会社という職場で働くにあたって最も大切に考えなければならないこととして、潮田さんは二つの要素を挙げる。



ひとつのフライトには実に多くのスタッフが関わり、チームワークが安全の要となる。

Visit a Global Company

ひとつめは、お客様あつてのビジネスを基本とするので、きちんとしたコミュニケーションを取ってニーズを正確に読み取り、サービスとして提供できること。

もうひとつは、ANA グループ全体で3万3000人を数える社員が、互いに意思疎通を図り力を合わせてフライトを飛ばしているという使命感を持つこと。

営業が座席を販売し、空港で地上職員が迎え、整備士が機体を万全に準備し、客室乗務員が機内でお世話をする……。ひとつのフライトを飛ばすまでにはグループ全体の力が必要で、安全な運行のためには社員同士の関係が円滑であることが非常に重要だ。

2012年、60周年を記念して新たに掲げたANAグループの行動指針には、その第一に、「安全こそ経営の基盤。守り続けます」とある。なによりも優先すべき「安全」を確保し続けるための最良の手段は、すべての業務に関わる人間同士のコミュニケーションである、とANAは考えている。

こうした企業特性は、どんな社員を求めて



2013年度のANAグループ入社式。多様な人材獲得がグループの活力につながる。

いるかにも大きく関わっている。そもそも航空業界は、例えば911やリーマンショックといった世界情勢がダイレクトに経営環境に影響する職場だ。そういった、予測のつかない事態の急変や激しい情勢の変化に対して、

萎縮したり無駄に抵抗したりすることは、業務を停滞させ、社員自身のストレスをも招く。前向きに気持ちを切り替え、逆境であってもチャンスであってもあらゆる変化に対して柔軟に対応し、果敢に挑戦し続けられる人材と

Corporate Information

全日本空輸株式会社

1952年12月、日本ヘリコプター輸送株式会社として設立され、翌年には東京～大阪間の貨物輸送など、営業路線を拡大。1957年、全日本空輸と社名変更。1964年にはボーイング727-100型機を就航させ、ジェット旅客機の時代を迎える。1986年には東京～グアム間の国際線定期便を運行開始。以降、ロサンゼルス、ワシントンDC、バンコク、ロンドンと、次々に国際線航路を拡大する。1999年には航空連合スターアライアンスに加盟。国内線最大の路線網を持つ、日本最大級の航空会社である。

というのが、ANAの求める人物像なのだ。

「なにかを極めてきた人、強いこだわりを持った人というのも、採用担当としては魅力を感じます。柔軟な対応力が必要な職場では、強い個性を持った人の発想力がとても貴重になります。個性と個性がぶつかり合うことで新たな局面が開け、競い合いの中から融合が生まれる。おもしろいものを持った人、魅力ある人物が成長していく姿を見ることは、採用する者としての喜びです」

グローバル企業の先輩に聞く！

お客様の満足のために
心新たに次なるチャレンジへ

友松亜弓さん 全日本空輸株式会社
国際提携部

国際提携部の業務内容について教えてください。

昨今、日本からの直行便がないような海外の都市に出張するビジネスパーソンが増えていいます。そのニーズに応えるためには、自社のネットワークを補完する形で他の航空会社と提携関係を結び、世界中へつながるサービスを提供する必要があります。国際提携部の役割は、そうした航空会社間の提携に関する交渉に加え、他国との航空協定に関して日本政府が行う航空交渉の場で、自社の要望を盛り込んでもらえるよう主張することです。

友松さんの仕事内容は？

ルフトハンザ航空とのジョイントベンチャーを担当しています。具体的には、日欧路線での共同運賃設定、共同セールスや、乗り継ぎの利便性を考えたダイヤ調整などの提携を推し進めています。

一日の仕事の流れはどんなものですか？

外国とのやりとりが中心なので、ほとんどのコミュニケーションはメールです。午前中はメールのチェックや返信に当てるほか、国内外の新聞やメールマガジンで航空業界のニュースを読み込みます。さらに、関係者に呼びかけて電話会議を設定することもあります。午後は部内での打ち合わせや、他部署と

連絡を取って進捗具合の確認など。ジョイントベンチャーの定例会議が3カ月に1回持ち回りで行われるため、準備も必要です。海外出張は最低でも月に1回。多いときは3～4回になります。そういう意味で、この仕事の適性とは、体力とお腹の強さ、それに時差に強いこと、かもしれません(笑)。

英語を使っている仕事内容は？

会議資料もメールもすべて英語です。契約書の文面は、法律用語などが使われた独特な文章ですが、すべての決めごとはこれに基づいて行われるので、非常に重要です。ひとつの言葉の誤解もかなりの大きな影響を及ぼす可能性があるため、いつも辞書を持ち歩いて必ず確認するようにしています。

語学の習得はいつ、どこで？

実は、ずっと英語には苦手意識がありました。大学受験で文法とライティングはそれなりに勉強したのですが、話すことはからっきし。せっかく生まれてきたのだから、いろいろなことを経験し、興味を広く持ち、多彩な文化に触れ、仕事も生活も充実したいと考えていたけれど、大学2年が終わった時点で「そのために自分は何もしていない！」と気づき、思い切って1年休学して、オーストラリアに留学することにしました。



2004年に入社後、1年間(株)ANAテレマート国際線予約センターに赴向。ANAに戻って法人販売部、フランクフルト支店、人事部を経て、2013年7月から現職。

留学で身につけたことは何ですか？

度胸がつけました(笑)。もちろん英語の勉強には力を注ぎました。それとともに、国籍の違う人とのコミュニケーションを通して、共通言語によって理解しあえることが飛躍的に増える経験を味わいました。また、それまでとは違う世界に住む友達を得て、行ってみたいところ、見てみたい景色、知りたい文化がもっともっと増えました。

仕事上のご苦労、やりがいを教えてください。

交渉ごとは、利害がせめぎ合うなか、どこ

で折り合いをつけるかを探り、相手との折衝を重ねる仕事。思うように進展しないこともしばしばです。交渉術はもちろん、知識や人格も身につけなければならないと痛感しています。また、文化の違いとは理解しているものの、強く非難するような外国人の意見には心が折れるような経験を何度もしました。交渉が進み、新しいコードシェア便や新路線が開拓できれば、それはお客様の利便性につながったという喜びはもちろん、新聞に載るようなニュースとして取り上げられます。そうした成果を見ると、「しっかりやった甲斐があったな」と感じるとともに、失敗は許されない仕事だと、身の引き締まる思いを新たにします。

友松さんのお仕事アイテム

仕事柄、突然の海外出張も日常茶飯事。そんな事態に備えて携帯しているのが、パスポートと外貨です。今は海外からアクセスして仕事ができる環境が整備されているので、PCも出張の必需品です。



失敗ケースから学ぶ 成功する留学の法則

留学
アドバイザーが
指南

留学で陥りやすい失敗談には、実は成功の秘訣がたくさん隠されているもの。海外留学をより充実させるための法則とは何か。日本初の留学アドバイザーとして、40年以上にわたり数多くの学生の留学を成功へと導いてきた、栄陽子留学研究所の栄陽子さんが指南する。

Case 01 コミュニカレッジから4年制大学に編入できない？

アメリカの4年制大学へ進学を希望していましたが、英語力がネックとなり、まずは現地の2年制コミュニカレッジに進学。卒業と同時に4年制大学へ編入できるよう準備を進めたものの、取得した単位が希望校に認定されず、編入をあきらめて帰国しました。

業と同時に4年制大学へ編入できるよう準備を進めたものの、取得した単位が希望校に認定されず、編入をあきらめて帰国しました。

Point / 留学先の教育事情を正しく把握して

この失敗ケースは多く見受けられます。アメリカ国内の大学数は約4000。多くの移民を受け入れ教育の機会を平等に与える国だからこそ、そのレベルや役割はアイビーリーグのような世界トップクラスの総合大学から、特定分野に特化した専門大学、職業訓練所として機能する大学まで、実にさまざまです。

ですが、履修した授業のレベルや内容によっては単位として認められないケースも。こうしたことから、コミュニカレッジから4年制大学へ編入できるのは全体の約5分の1とも言われています。

では、コミュニカレッジとはどのような大学でしょう。主に公立の2年制大学を指し、「手に職をつける」ための職業教育コースと、4年制大学に編入するための進学コースを持っています。コミュニカレッジから4年制大学に編入する場合は、一定数以上の取得単位を編入先に認定してもらう必要があります。

このように、教育の実情は、国や地域によって大きく異なります。英語力が低くても受け入れてくれるからといって安易に留学先を決めてしまうのはとても危険。当たり前のことですが、教育に対する考え方、入学・編入時の審査基準、授業の内容や進め方、在学生のバックグラウンドなど、事前にしっかりと調べたうえで自分に合った進学先を見極めることが、留学を成功させるはじめの一歩です。



Case 02 海外で生活しているのに英語力があがらないんです。

英語学校に留学してはや3ヵ月。思うように英語力が伸びなくて悩んでいます。周りには日本人留学生も多いので、気づけば日本語ばかり話していることも……。現地でも大学進学を目指していますが、この調子では入学できるのか、とても不安です。

現地でも大学進学を目指していますが、この調子では入学できるのか、とても不安です。

Point / 勉強が苦手なら体を使って学ぼう

日本人はネイティブのような発音ができないことを恥じ、英語が話せないと思込む傾向にあります。しかし、日本人の英語力は海外で十分に通用します。中学校レベルの英語を理解し、1ヵ月も英語圏で生活すれば、買い物や食事といった日常生活には困らなくなるでしょう。ただ、そうなると勉強を怠けてしまい英語力がストップする人が多いのです。

相撲取り、ということをご存じでしょうか。語学力にかかわらず、話さなければいけない状況に自分を追い込み、たくさん恥をかきながら必死にコミュニケーションする経験は、語学力を大きく向上させます。日本人とばかり一緒にいるなんてもったのほか！ 早い段階で自分がどちらのタイプか判断すれば、効率的に英語を身につけることができますから、英語で勉強する状況を早めにつくることが大切です。海外の大学の入学審査は、英語力や学業成績だけでなく、総合的に合否を決めます。せっかく海外にいるのですから、英語の点数にこだわらず、直接大学に面接に行くなど、行動することをお勧めします。

英語を学ぶ方法は大きく分けて2つあります。まずは文字通り、机の前に座って「勉強」する方法。これができる人は目標の英語スコアを定め、そこに向かって邁進してください。この方法が苦手な人は「体」で英語を学ぶこと。日本で最も速く日本語を覚える外国人は



栄陽子留学研究所 <http://www.ryugaku.com/>
イラスト/よねやまゆうこ

英検協会は、全国の高校生や大学生の留学促進を支援しています！

あなたのまちや大学で 留学フェア・留学セミナーを開催できます。

英語圏を中心とした各国大使館・公的機関などの協力を得て留学フェアや留学に関するさまざまなセミナーの企画立案から実施・運営まで英検協会が支援します。

〈これまでの実績〉

北海道海外留学フェア(北海道大学)、英語圏大使館合同留学フェア(明治大学)、東海地区海外留学フェア(名古屋大学)、九州海外留学フェア(西南学院大学)、千葉大学留学フェア(千葉大学)、高校生のための留学フェア(北海道教育庁)、とくしま留学フェア(徳島県教育委員会)、その他茨城県教育委員会、京都府教育委員会など多数

下記までお気軽にお問い合わせください

公益財団法人 日本英語検定協会 教育事業部国際課 マーケティング担当

TEL 東日本:03-3266-6121 / 西日本:06-7670-8085

Email support-kokusai@eiken.or.jp

英検



奨学金情報

みなさんの留学をサポートしてくれる奨学金制度をご紹介します。それぞれ、年齢や居住地など応募条件が異なるため、必ず事前に問い合わせしてから応募しよう。

1) 給付元 2) 募集期間 3) 募集人数 4) 給与内容 5) お問い合わせ

日本政府奨学金

● 海外留学支援制度（長期派遣）

- 1) 独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）
- 2) 11月中旬まで、あるいは各大学に問い合わせ
- 3) 未定
- 4) 月額89,000円～148,000円（派遣先地域による）、授業料実費（上限250万円）
- 5) 03-5520-6014（留學生事業部留學生交流支援課 長期派遣担当）

● 海外留学支援制度（短期派遣）

- 1) 独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）
- 2) 在籍大学に問合せ
- 3) 未定
- 4) 月額6万円～10万円（派遣先地域による）
- 5) 03-5520-6014（留學生事業部留學生交流支援課 短期留学（派遣）担当）

地方自治体奨学金

● 茨木市国際親善都市協会 留學生奨学金

- 1) 茨木市国際親善都市協会
- 2) 5月末頃まで
- 3) 20名程度
- 4) 年額6万円
- 5) 072-620-1604

● 埼玉県・オハイオ州スカラシップ 機械工学系

- 1) ニッポン・ブレイク・オハイオからフィンドレー大学に寄附
- 2) 10月初旬締め切り
- 3) 2名
- 4) 2万ドル（授業料、住居費等）
- 5) 048-830-2713（県民生活部 国際課 国際戦略担当）

● 埼玉県・オハイオ州スカラシップ 総合系

- 1) 埼玉県
- 2) 10月初旬締め切り
- 3) 1名
- 4) 授業料
- 5) 048-830-2713（県民生活部 国際課 国際戦略担当）

● 「埼玉発世界行き」学位取得コース

- 1) 埼玉県グローバル人材育成基金
- 2) 4月下旬～6月初旬
- 3) 10名以内
- 4) ①年間世帯所得が600万円未満の方、年間100万円以内 ②向600万円以上800万円未満の方、年間75万円以内 ③向800万円以上の方、年間50万円以内
- 5) 048-830-2711（県民生活部 国際課 グローバル人材育成担当）

● 「埼玉発世界行き」協定・認定留学コース

- 1) 埼玉県グローバル人材育成基金
- 2) 4月下旬～6月初旬
- 3) 200名以内
- 4) 20万円以内
- 5) 048-830-2711（県民生活部 国際課 グローバル人材育成担当）

● 「埼玉発世界行き」高校生留学コース

- 1) 埼玉県グローバル人材育成基金
- 2) 4月下旬～6月初旬
- 3) 50名程度
- 4) ①保護者の所得が600万円未満の場合：留学期間179日以下30万円、留学期間180日以上60万円 ②保護者の所得が600万円以上800万円未満の場合：留学期間179日以下23万円、留学期間180日以上45万円 ③保護者の所得が800万円以上の場合：留学期間179日以下15万円、留学期間180日以上30万円
- 5) 048-830-2711（県民生活部 国際課 グローバル人材育成担当）

● 戸田市海外留学奨学制度

- 1) 埼玉県戸田市
- 2) 2014年1月16日～2月6日
- 3) 若干名
- 4) 授業料及び生活費、渡航費
- 5) 048-441-1800（教育委員会 教育総務課 総務担当）

● (公財) 長岡市米百俵財団 海外高校留學生奨学金

- 1) (公財) 長岡米百俵財団
- 2) 6月初旬～8月初旬
- 3) 3名程度
- 4) AFSまたはYFUのプログラム参加費（AFS：130万、YFU：118万）
- 5) 0258-39-2203（事務局）

● (公財) 新潟市国際交流協会 新潟市高校生留學生支援事業

- 1) (公財) 新潟市国際交流協会
- 2) A日程：6月初旬 B日程：7月初旬
- 3) 3名
- 4) プログラムの参加費半額
- 5) 025-225-2727（高校生留學生支援事業係）

● 松本・土井アイリン海外留学助成金

- 1) 宝塚市
- 2) 2013年12月13日応募〆切（2014年2・3月から留学を開始される方）、2014年2月14日応募〆切（2014年4月から留学を開始される方）
- 3) 未定
- 4) 留学1回につき60万円
- 5) 0797-77-2009（産業文化部 宝のまち創造室 国際文化課）

● 三重県私費海外留學生奨学金

- 1) 三重県
- 2) 3月上旬～4月中旬
- 3) 10名以内
- 4) 年間授業料相当額
- 5) 059-223-5006（(公財) 三重県国際交流財団）

● 瑞穂町海外留學生奨学金等支給制度

- 1) 瑞穂町教育振興基金
- 2) 毎年6月1日～6月30日（第1期）毎年1月4日～1月31日（第2期）
- 3) 若干名
- 4) 奨学金（留學生学校の授業料またはこれに準ずると認められる費用）、渡航費
- 5) 042-557-7469（企画部 企画課）

● 山梨県アイオワ州短期派遣留學生

- 1) アイオワ州姉妹州委員会または留學生先
- 2) 4月下旬まで
- 3) 1名
- 4) 12単位分の授業料など
- 5) 055-223-1436（山梨県観光部 国際交流課 国際交流担当）

● 山梨県派遣留學生

- 1) 忠清北道
- 2) 1月上旬まで
- 3) 1名
- 4) 支度料、滞在費、国内旅費、語学研修費、宿舎管理費、厚生費など
- 5) 055-223-1436（山梨県観光部 国際交流課 国際交流担当）

● 四日市市科学教育奨学金

- 1) 四日市市教育委員会
- 2) 5月～7月まで
- 3) 毎年1人
- 4) 月額10万円
- 5) 059-354-8236（教育総務課）

● 淀江町青少年ゆめ基金活用事業補助金

- 1) 淀江町青少年ゆめ基金活用委員会
- 2) 未定 3) 未定
- 4) 学費、渡航費を200万円まで
- 5) 0859-56-3164

民間団体奨学金

● IRENA Scholarship Programme

- 1) 国際再生可能エネルギー機関（IRENA）
- 2) 5月末
- 3) 最大20名
- 4) 授業料、教材費、ノートパソコン、医療保険、住居費、旅費、一部生活費支給
- 5) scholars@irena.org

● (公財) アステラス病態代謝研究会 海外留学補助金

- 1) (公財) アステラス病態代謝研究会
- 2) 4月初旬～6月中旬
- 3) 10名程度
- 4) 1名あたり200万円
- 5) 03-3244-3397（事務局）

● (公財) 飯塚教育英会 海外留学支援奨学金

- 1) (公財) 飯塚教育英会
- 2) 6月中旬～7月下旬
- 3) 15名程度
- 4) 大学生：年額40万円 大学院修士課程：年額60万円 大学院博士課程：年額80万円
- 5) 028-649-2121（事務局）

● 石橋財団奨学金（日本国際教育支援協会冠奨学金）

- 1) (公財) 石橋財団
- 2) 6月下旬まで
- 3) 5名
- 4) 月額15万円
- 5) 03-5454-5274（日本国際教育支援協会 国際交流課 奨学金係/担当：藤田）

● (公財) 伊藤国際教育交流財団 日本人奨学金

- 1) (公財) 伊藤国際教育交流財団
- 2) 6月下旬～8月中旬
- 3) 13名
- 4) プログラムA：生活費月額18万円（US2000ドル相当）、学費、往復旅費 プログラムB：生活費月額13万5000円～18万円、学費、往復旅費
- 5) 03-3299-7872（伊藤国際教育交流財団事務局）

● イリノイ大学日本同窓会 小山八郎記念奨学制度

- 1) イリノイ大学日本同窓会
- 2) 10月末まで
- 3) 4名
- 4) 年間授業料
- 5) masa.furuichi@illini-club.jp（日本同窓会事務局/担当：古市）

● オリエンタ財団奨学金

- 1) Fundacao Oriente
- 2) 毎年1月
- 3) 若干名
- 4) 学費、渡航費（往復）など
- 5) info@foriente.pt

● Kiyo Sakaguchi 奨学金

- 1) フルデンシャル生命保険株式会社
- 2) 未定 3) 1、2名
- 4) 授業料年間最大300万円、最長4年
- 5) 03-5501-5355（広報チーム）

● (公財) グルー・バンクロフト基金 奨学金制度

- 1) (公財) グルー・バンクロフト基金
- 2) 9月中旬まで
- 3) 5名
- 4) ①毎年200万円を4年間支給。ただし留學生より授業料（全額）を免除される場合は、生活費として100万円を4年間支給（3名） ②毎年1万ドルを4年間支給
- 5) 03-3408-6343

● 群馬県大学生海外留學生奨学金

- 1) (公財) ぐんま国際教育財団
- 2) ～4月中旬
- 3) 一般留學：3名 研修留學：5名
- 4) 一般留學：60万円 研修留學：30万円
- 5) 0276-60-3450

● 公益信託グラクソ・スミスクライン国際奨学金基金

- 1) グラクソ・スミスクライン株式会社
- 2) 4月1日～5月中旬頃
- 3) 3名以内
- 4) 年額360万円を2年間支給
- 5) 03-5786-5000

● 皇太子明仁親王奨学金

- 1) 皇太子明仁親王奨学金財団およびハワイ大学財団
- 2) 11月中の12日間
- 3) 1名
- 4) ハワイ大学の学費、生活費等として年間2万5千ドル、渡航旅費（上限あり）
- 5) 03-6741-0161（皇太子明仁親王奨学金日本委員会）

● 交流協会奨学金留學生

- 1) (公財) 交流協会
- 2) 10月下旬まで
- 3) 若干名
- 4) 奨学金：14万4000円（修士課程及び専門職学位課程）、14万5000円（博士課程）の月額基本額に加え、特定の地域で修学・研究する者に対して、月額2000円又は3000円を加算して支給、授業料、帰国旅費
- 5) 03-5573-2600（総務部 奨学金担当）

● 国際ロータリー グローバル補助金

- 1) 国際ロータリーのロータリー財団
- 2) 未定 3) 未定
- 4) 3万ドル以上
- 5) 各地区ロータリー財団委員会事務局

● 国際ロータリー 新地区補助金

- 1) 国際ロータリーの各地区のロータリー財団
- 2) 各地区により異なる
- 3) 各地区により異なる
- 4) 制限なし
- 5) 各地区ロータリー財団委員会事務局

● 佐藤陽国際奨学財団 海外派遣留學生奨学制度

- 1) (公財) 佐藤陽国際奨学財団
- 2) 未定 3) 未定
- 4) 奨学金月額8万円、渡航費、交換留學一時金10万円
- 5) 03-5487-2775（事務局）

● CWAJ 海外留學大学院女子奨学金 (SA)

- 1) College Women's Association of Japan
- 2) 10月下旬～10日間程度
- 3) 1名
- 4) 300万円
- 5) scholarship@cwaj.org

● 私費訪中留學生奨学金

- 1) (公財) 東華教育文化交流財団
- 2) 毎年6月
- 3) 未定
- 4) 月額3万円
- 5) 03-3571-7613

● 秀桜基金留學賞

- 1) 秀桜基金
- 2) 9月1日～10月31日
- 3) 3名
- 4) 300万円
- 5) 086-528-9530（秀桜基金事務局）

● 高橋&ハワット記念奨学金

- 1) NPO 日本スコットランド協会
- 2) 3月～4月末日
- 3) 2名
- 4) 30万円
- 5) 03-6380-5256

● ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業

- 1) (公財) ダスキン愛の輪基金
- 2) 11月末日
- 3) 5～8名程度
- 4) 上限4万USドル（渡航費・研修委託費・日常生活費等）
- 5) 06-6821-5270

● (公財) 中島記念国際交流財団 日本人海外留學生奨学金

- 1) (公財) 中島記念国際交流財団
- 2) 6月上旬に発表予定
- 3) 10名程度
- 4) 奨学金：月額20万円、渡航費：往復支給、支度金：20万円、授業料：留學当初の2年間に限り、年間300万円以内を支給
- 5) 03-5770-8210

● (公財) 中富健康科学振興財団 留學助成金

- 1) 久光製薬株式会社
- 2) 7月1日～9月30日
- 3) 未定
- 4) 留學助成金1名あたり50万円
- 5) Webで問合せ（中富健康科学振興財団 東京事務局）

● 日本/世界銀行 共同大学院留學生奨学制度 レギュラープログラム

- 1) 世界銀行本部
- 2) 3月末
- 3) 10名程度
- 4) 学費、生活費、渡航費、医療保険
- 5) jiwbgsp@worldbank.org（奨学金事務局）※英語のみ

● 日本/世界銀行 共同大学院留學生奨学制度 NGOプログラム

- 1) 世界銀行本部
- 2) 3月末
- 3) 5名程度
- 4) 学費、生活費、渡航費、医療保険
- 5) jiwbgsp@worldbank.org（奨学金事務局）※英語のみ

● 馬場財団国際理解教育人材養成奨学制度

- 1) (公財) 日本国際教育支援協会
- 2) 2014年1月31日必着
- 3) 7名程度
- 4) 渡航費（成田・関西から留學先主要都市までの往復相当）、奨学金（月額10万円×留學月数〔3ヶ月以上12ヶ月以内〕）
- 5) 03-5454-5274（事業部 国際交流課/担当：松田）

● Funai Overseas Scholarship

- 1) (公財) 船井情報科学振興財団
- 2) 7月中旬～10月中旬
- 3) 10名程度
- 4) 授業料全額、医療保険費全額、生活費月額2500ドル、支度金50万、渡航費
- 5) 03-3254-5635（財団事務局）

● (公財) 平和中島財団 日本人留學生奨学金 (中島健吉記念奨学金)

- 1) (公財) 平和中島財団
- 2) 9月～10月
- 3) 15名
- 4) 学部生：月額15万円、渡航費 大学院生：月額20万円、渡航費
- 5) 03-5570-5261（事務局 日本人留學生係）

● (公財) 松下幸之助記念財団 松下幸之助国際スカラシップ

- 1) (公財) 松下幸之助記念財団
- 2) 2014年3月に募集要項をHP掲載予定
- 3) 最大10名
- 4) 月額13～15万円を1年または2年分、渡航費
- 5) ajisuka@gg.jp.panasonic.com

● 村田海外留學生奨学金

- 1) (公財) 村田海外留學生奨学金会
- 2) 7月初旬～8月末
- 3) 2～4名
- 4) 学費、生活費、渡航費など留學に要する経費
- 5) 075-681-2345（事務局）

● (公財) 明治安田クオリティオブライフ文化財団 「海外音楽研修生費用助成」制度

- 1) (公財) 明治安田クオリティオブライフ文化財団
- 2) 2014年1月6日～4月11日
- 3) 4名程度
- 4) 年額200万円（原則2年間）
- 5) 03-3349-6194

● (公財) ヤマハ発動機スポーツ振興財団 海外留學生奨学金

- 1) (公財) ヤマハ発動機スポーツ振興財団
- 2) 9月上旬～11月中旬
- 3) 若干名
- 4) 月額10万円（最長2年間）
- 5) 0538-32-9827

● (公財) 吉田育英会 日本人派遣留學生プログラム

- 1) (公財) 吉田育英会
- 2) 9月下旬まで
- 3) 5名
- 4) 生活滞在費：月額20万円、学校納付金：合計250万円以内、扶養補助（該当者のみ）、渡航費
- 5) 03-5610-8103（吉田育英会事務局）

外国政府等奨学金

● ヴァニエ・カナダ大学院奨学金

- 1) カナダ社会・人文科学研究会議、カナダ自然科学・工学研究会議、カナダ保健研究機構の3つの連邦給付機関
- 2) 9月か
- 3) 最大500名
- 4) 年間5万カナダドル（最長3年）
- 5) vanier@cifr-irsc.gc.ca

● オーストラリア政府奨学金 豪州首相奨学金 「オーストラリア・アジア賞」

- 1) オーストラリア国際開発庁および技術革新産業科学研究高等教育省
- 2) 4月1日～6月30日（オーストラリア時間）
- 3) 20名（アジアの対象国のエンデバー大学院奨学金受賞者（博士課程のみ）上位20名）エンデバー大学院奨学金に準ずる
- 4) 最高で26万3500オーストラリアドル
- 5) 問合せ不可、該当者に通知あり

● オーストラリア政府奨学金 エンデバー大学院奨学金

- 1) オーストラリア国際開発庁および技術革新産業科学研究高等教育省
- 2) 4月1日～6月30日（オーストラリア時間）
- 3) 未定
- 4) 最高で、博士課程：22万8500オーストラリアドル、修士課程：11万8500オーストラリアドル
- 5) endeavour.awards@innovation.gov.au

● オーストラリア政府奨学金 エンデバー・コン研究奨学金

- 1) オーストラリア国際開発庁および技術革新産業科学研究高等教育省
- 2) 4月1日～6月30日（オーストラリア時間）
- 3) 未定
- 4) 最高で、2万3500オーストラリアドル
- 5) endeavour.awards@innovation.gov.au

● オーストラリア政府奨学金 エンデバー研究フェロウシップ

- 1) オーストラリア国際開発庁および技術革新産業科学研究高等教育省
- 2) 4月1日～6月30日（オーストラリア時間）
- 3) 未定
- 4) 最高で、2万3500オーストラリアドル
- 5) endeavour.awards@innovation.gov.au

● オーストラリア政府奨学金 エンデバー専門技術奨学金

- 1) オーストラリア国際開発庁および技術革新産業科学研究高等教育省
- 2) 4月1日～6月30日（オーストラリア時間）
- 3) 未定
- 4) 最高で、11万9500オーストラリアドル
- 5) endeavour.awards@innovation.gov.au

● 高円宮記念クイーンズ大学奨学金

- 1) クイーンズ大学、在日カナダ大使館
- 2) 2014年3月25日〆切
- 3) 未定
- 4) 2万5000カナダドル
- 5) awards@queensu.ca

● Dr Goh Keng Swee Scholarship

- 1) Association of Banks in Singapore (ABS)
- 2) 2014年2月19日必着
- 3) 3～4名
- 4) 学費および必要経費、渡航費（往復）、生活扶助（年間6500シンガポールドル）、寮費、準備金（200シンガポールドル）
- 5) applications@psd.gov.sg

● バンティング博士研究員奨励金

- 1) カナダ保健研究機構、カナダ自然科学・工学研究機構、カナダ社会・人文科学研究機構の3つの連邦研究助成機関
- 2) 7月～10月下旬まで
- 3) 各年70名
- 4) 年間7万カナダドルを2年間
- 5) banting@researchnet-recherchenet.ca

● 大学院留學 (学術系学位) プログラム

- 1) 日米教育委員会（フルブライト・ジャパン）
- 2) 3月募集発表
- 3) 約20名（「大学院博士論文研究プログラム」を含む）
- 4) 渡航費、生活費

IELTS Hot News

IELTSの準備テストとしてカスタマイズされた「Aptis for University」が大学向けの英語評価サービスとして販売が開始された。一方、理系大学院生を対象とした英語プレゼンコンテストは、今年で3回目を迎える。

IELTS 準備テストに最適 Aptis for University

IELTS の簡易版として 大学でも注目

ブリティッシュ・カウンシルが提供する「Aptis」は、企業や教育機関向けに、必要に応じたスキルが測れるようカスタマイズできる英語力評価テストだ。IELTSの簡易版としても活用できることから、にわかに注目が集まりつつある。そのAptisが、日本英語検定協会と協力し、日本の大学向けに「Aptis for University」というサービスを始動した。9月の販売以来、グローバル人材

の育成を加速化させるツールとして、関心を寄せる大学は少なくない。

テストは「コアモジュール(文法と語彙力)、リーディング、リスニング」という組み合わせで構成され、IELTSにもつながるアカデミックな問題が中心となる。

成績は、語学能力のレベルを示す国際標準規格として欧米で広く導入されている「CEFR」で示される。6つの等級に分けられるCEFRは、その言語で「具体的に何が出来るか」を定めているため、学生の英語運用能力を世界基準で正しく把握することがで

CEFR スコアの目安

IELTS バンドスコア	CEFR	熟 達 度	IELTS バンドスコア	CEFR	熟 達 度
8.5 ~ 9.0	C 2	ほぼすべてのものを容易に理解できる。会話は自然で、流暢かつ正確に自己表現ができる。	5.0 4.0 ~ 4.5	B 1	身近な話題について標準的な話し方であれば理解できる。筋の通った簡単な文章がつけれる。
8.0 7.0 ~ 7.5	C 1	高度な長い文章を理解して含意を把握できる。複雑な話題について明確な文章をつくれる。	3.0	A 2	家族、買い物、仕事などの表現が理解できる。日常の事柄について単純な情報交換ができる。
6.5 5.5 ~ 6.0	B 2	母語話者とも緊張しないで自然にやり取りができる。幅広い話題について明確な文章をつくれる。	2.0	A 1	簡単な自己紹介ができる。ゆっくりとした会話なら簡単なやり取りをすることができる。

熟達度は内容を抜粋して紹介しています。

きるのだ。

手軽に、正しく、迅速に 英語運用能力が測れる

活用の方法はさまざま。英語の授業のプレースメントテストとして、学生たちのレベル分けに使用する大学もある。また、IELTSの試験対策としても有効だ。

例えば青山学院大学では、IELTS対策講座を受講する学生の選抜に、この「Aptis for University」を使い、講座終了後にも再び受験させて習熟度を測り、成績の一部に

も活用している。「入口」と「出口」に応用して取り入れるなど、大学のニーズに合わせて使い方が可能なのである。

多くの大学が「Aptis for University」に関心を持つ理由は、その導入のしやすさにもあるようだ。試験時間は88分で、大学の授業にも組み込みやすい長さ。試験後1週間で結果が出るのも魅力だ。さらに、3000円という価格も導入を後押しする要因のひとつになるかもしれない。手軽に、正しく、迅速に英語力が測れる、画期的なサービスと言えそうだ。

理系大学院生のための 英語プレゼンコンテスト

理系学生にも不可欠な 英語のスキル

「理系大学院生のための第3回英語プレゼンテーションコンテスト」が11月2日、大阪市北区の大阪大学中之島センターで開催された。このコンテストは、大阪大学、日本英語検定協会、ジャパンタイムズが毎回共催しているものだ。

理系学生には英語スキルが必須である。世界的な科学研究論文は英語で書かれており、学会に参加すれば言語は全て英語。また、学会で研究成果を発表するなら英語で話す必要があるため、プレゼンのスキルを磨く必要が

ある。このコンテストは、いつか国際的なシンポジウムでスポットライトを浴びるような科学者の育成を視野に入れ、英語でプレゼンを行うことの重要性に関して学生の意識を高めることを目的としている。

「私は外国に住んだことがありませんが、大学院で英語をたくさん使っています。海外から客員教授が来たり、研究室に留学生がいたりしますので」と大阪府立大学大学院在籍で、コンテストに優勝した田村惇一さん。

年々質が上がる プレゼンターの力量

4人の審査員は、年々プレゼンターの質が



大阪府立大学大学院生の田村惇一さんは「不可逆現象と物理の基本法則」というプレゼンでコンテストに優勝した。



授賞式後に、コンテストの審査員と出場者が写真撮影。

向上していると語る。「誰一人として下を見ている人がいなかった。皆、審査員を見ていましたね」と審査員のひとりである大阪府立大学工学部の本條勝彦教授は、6人のプレゼンターを賞賛した。

審査員のひとり、クラス・リーゼ氏(アスパイアコミュニケーションズ代表取締役)は、質疑応答では、質問を繰り返すことで質問者だけでなく会場の全ての人に質問が分か

るようにすること、回答は15秒以内にするなど、とアドバイスした。他の二人の審査員はジャパンタイムズのマーク・デイビス氏と大阪大学大学院の寺井智之教授である。

田村さんが「不可逆現象と物理の基本法則」というプレゼンで優勝した理由は、「観客にしっかり向き合ったのは彼だけだった」とことだとリーゼ氏。また、田村さんの話すペースは秀逸だったと賛辞を贈った。

Aptis

Forward thinking
English testing

Aptis for Japanese University
は日本の大学のために設計された
世界基準の英語力評価テストです。

英国の公的な国際文化交流機関のブリティッシュ・カウンシルと、「英検」を創設して50年の歴史を持つ公益財団法人日本英語検定協会が、日本の大学向けに英語テスト「Aptis for Japanese University」をスタートしました。このテストは「文法と語い力(コアモジュール)+リスニング+リーディング」という組み合わせで構成され、手軽に、正しく、そしてスピーディに受験者の英語力が測れます。

88
min

試験時間は
授業の時間割にも
組み込みやすい
88分。

受験者が
多い場合でも
導入しやすい
価格。

3,000
円(税別)/人

約
1
週間

テスト結果は
約1週間後に、
申込者宛てにお届け。
CEFR(ヨーロッパ言語参照枠)
との照らし合わせもできる
ので世界基準の英語能力を
把握することが可能。

Aptis for Japanese University(大学向けアプティス)に関するお問い合わせはこちらまで

BRITISH
COUNCIL

ブリティッシュ・カウンシル
TEL : 03-3235-8031
E-mail : exams@britishcouncil.or.jp

英検

公益財団法人
日本英語検定協会

公益財団法人 日本英語検定協会
TEL : 03-3266-6121

ウェブサイト
www.britishcouncil.or.jp/aptis



ブリティッシュ・
カウンシルの
講師に聞く

IELTS テストのコツ

by John Grant

今号から2回にわたって、ライティング対策を取り上げる。
まずは、Task 1 で見過ごされがちなポイント、
概要 (overview) の大切さと書き方のコツを伝授しよう。

よくあるミスは概要の書き忘れ

1時間に2つのエッセイを書くライティングテスト。Task 1では20分を目安に、150語以上の文章を書くことが求められます。このTask 1でもっともよくあるミスは、グラフや表の概要を書き忘れてしまうこと。概要とは、グラフや表が示す主な傾向や全体的な説明のことです。たいていの受験者は、グラフや表の詳細を説明することに集中してしまい、概要を書くことを忘れてしまいがちです。

概要を書けないとスコアが上がらない?

Task 1は、「Task achievement (課題の達成度)」「Coherence and cohesion (論旨の一貫性)」「Lexical resources (語彙力)」「Grammatical range and accuracy (文法力)」という4つの評価基準*1に基づいて採点されます。概要は、この中で、Task achievementの成績に影響します。

公表されている評価基準によると、そもそも概要がないと、Task achievementにおいて、バンドスコア6以上を取ることができません。また、バンドスコア6の評価基準として、「的確に選択された情報に基づく概要が示されている」とあるので、たとえ書いたとしても、それが不十分なものであれば、5以下の評価となってしまうのです。一方、概要がきちんと「主な傾向、違い、または段階・局面を示している」と、バンドスコア7またはそれ以上と評価してもらうことができます。

概要がいかにスコアに影響するか、おわかりいただけただしょうか。それでは、良い概要とはどのようなものでしょうか?

ひと言で言うと、要約がなされていると同時に、「全体的な傾向」「最も重要な変化」について書かれている必要があります。

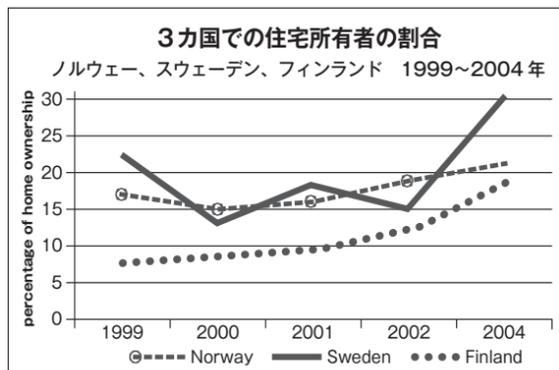
「全体的な傾向」を把握しよう

まず、「全体的な傾向」を見る際、以下の点に気をつけてみましょう。

◆ 全体傾向を把握するための視点 ◆

- 線グラフの場合、線は上がっているか、下がっているか、上下動はあるか。複数の数値がある場合、順位に変化はあるか。
- 棒グラフにおいて、目立って変わっているところはありますか。
- 2つ以上のグラフや表がある場合、それらの関係性は何か。
- フローチャートの場合、単純なものか、複雑なものか。何か重要なステップがあるか。

では、下のグラフを見てください。全体的な傾向は何ですか? また、特に目立っていることは何でしょうか。



このグラフの中で、ノルウェーやフィンランドの住居所有者の割合は徐々に数値が上がっているのに対し、スウェーデンにおいては急激な上昇・下降を経て、最終的には最も高い値で終わっています。全体的に見ると、3カ国すべてにおいて、その割合は上がっていることとなります。良い評価を受けるには、これらを概要として含める必要があります。

では、以上の点を踏まえて次の導入部分を見てみましょう。

〈解答例〉

This graph shows the percentage of people who own their own homes in Scandinavian countries in a five-year period beginning in 1999. Overall, the most significant trend is that home ownership has improved in all three countries during these years. Another interesting point is that Sweden had the highest level of people who were homeowners at the beginning and end of the time period, followed by Norway and Finland. Norway and Finland show gradual changes, although Sweden does fluctuate quite dramatically during this time.

〈日本語訳〉

このグラフは、スカンジナビア諸国における、1999年から5年間の、住宅所有者の割合の変化を表しています。全体的に、最も大きな傾向は、この期間、3カ国すべてにおける、住宅所有者の割合が上がっていることです。また興味深い点としては、スウェーデンは、最初と最後において最も割合が高く、ノルウェー、フィンランドがそれに続いていることです。ノルウェーとフィンランドの変化は緩やかなものですが、スウェーデンについては、この間に非常に大きな変動があります。

概要では、細部まで述べる必要はありません。ここでは、大きな流れに気づくことができるかどうかが大切です。また、大きな変化にだけ注目する人もいますが、同じ状態が続く場合、それを言及することも重要です。

概要に使えるフレーズを覚えよう

よい概要を書くためには、導入のフレーズを使うことがポイントです。これによって、読み手に重要な情報について述べようとしていることが示せます。

◆ 導入に役立つフレーズ ◆

- The most noticeable trend ... (最も注目すべき傾向は...)
- One of the most significant trends is... (最も重要な傾向のひとつは...)
- Overall, the graph shows ... (全体的に、グラフが示しているのは...)
- The most important point to note is... (最も重要な点について述べると...)
- It is clear that... (明らかなのは...)

なお、概要は必ずしも解答文の最初に書く必要はなく、最後に置いてよいのです。概要はよき導入になると同時に、文章を締めくくるのにも役立ちます。以下、良い概要の書き方をまとめましょう。

◆ 概要のポイント ◆

- 導入のフレーズを使い、これが概要であると明確にすること。
- 大きな視点を持ち、細部にだけ集中しないこと。
- 大きな変化だけでなく、同じ状態が続く場合にも注目すること。
- 概要は結論とは異なるもの。グラフが意味するところや原因等について書く必要はない。
- インターネットなどで公開されているTask 1の解答例を参考にし、概要をどのように記述しているか確認すること。

みなさんの成功を祈ります!

*1 IELTS の評価基準

<http://www.ielts.org/pdf/WritingBanddescriptorsTask1.pdf>

IELTS™



IELTS.
The international
license.

IELTSという名の国際免許証

IELTS (International English Language Testing System、アイエルツ)は、英語圏への留学や、移住を志す人の英語能力を評価するために作られたテストです。信頼性、公平性の高さからイギリス、オーストラリア、アメリカ、カナダを始め世界135カ国で約8,000の機関が、IELTSを受け入れ基準として認めています。2012年の全世界合計の受験者数は200万人に達し、英語能力試験のグローバルリーダーの役割を果たしています。

日本では、東京、横浜、名古屋、京都、大阪、神戸、広島、岡山、福岡、札幌、仙台、金沢、さいたままで受験することができます。

お問合せ・受験申し込みは、
公益財団法人 日本英語検定協会 IELTTS 事務局まで
www.eiken.or.jp/ielts

IELTSとは...

16歳以上を対象にしたテストで、英語で授業を行う大学や大学院に入学できるレベルに達しているかどうかを評価するアカデミック・モジュールと、英語圏で学業以外の研修を考えている方向けのジェネラル・トレーニング・モジュールの2種類があります。いずれも、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングの4つのテストで構成されています。

IELTSは、フェアな試験内容と高い信頼性が特徴のテストです。一般的な英語検定テストと特に異なるのは、1対1の面接形式で行われるスピーキングテストがあることです。試験官が、受験者のコミュニケーション力を最大に引き出し、評価できるようにインタビュを行います。これが、他のテストと一線を画す、生きた英語を習得できるIELTSの強みです。



ブリティッシュ・カウンシルでは、IELTS 試験対策コースを東京・横浜で開講中!!
www.britishcouncil.or.jp

勉強法や留学した人の体験談がわかる
<http://www.facebook.com/IELTS.BritishCouncilJapan>

公益財団法人
日本英語検定協会

BRITISH
COUNCIL

公益財団法人 日本英語検定協会は、
ブリティッシュ・カウンシルと
日本でのIELTSを共同運営しています

IELTS 対策コースナビ

Vol.1

beoカレッジ ～リスニング編～

複数のスキルを同時に磨ける 総合的な学びでスコア向上を狙う

IELTS 対策の学習が 海外大学の授業準備に

東京・大阪に拠点を持つ beo カレッジは、大学・大学院留学のための学習を専門にサポートするスクール。出願の際、英語力証明のために使われる IELTS についても、複数のコースを設けて指導にあっている。「受講生は海外の大学・大学院留学を目指す学生や社会人が多く、大学・大学院合格の目安とされる IELTS スコア 6.0～6.5 以上を取得することを目標としています」と、beo カレッジの渡辺マネージャー。

授業は外国人講師によってすべて英語で行われ、テキストも海外から取り寄せた英語のみの教材を使用する。「IELTS は、日常で使われる言葉だけでなく、アカデミックな英語を理解する力が問われる試験です。単に試験のフォーマットに沿って対策を練るのではな

く、広く社会問題などについて書かれた文章を素材として、文章の構成の仕方、多彩な語彙・文法などをじっくり学びます。これから留学を控えている方にとっては、IELTS 対策の勉強をすることが、すなわち海外の大学で授業を受ける準備をすることになります。

重要な情報をつかみ 的確にメモをとる

授業は、「今回はリーディング、次回はリスニング」と分けるのではなく、1回の授業の中で、1つの素材をもとに、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングが総合的に学べるようにしている。

「文章を読んで理解できたことを英語で話し合うことにより、リーディングの学習をするだけでなく、リスニング、スピーキングの練習にもなります。普段英語に接する機会の少ない日本人にとって、教室は英語環境に浸

ることができる貴重な場です」と、講師のステュアート・アンダーソンさん。講師は全員、英語教授法の修士課程以上の修了者であり、海外の大学での英語教授経験がある。

IELTS のリスニングテストは、2人の人物による会話、もしくは1人の話者によるスピーチなどを聞き、内容に関する質問に答えるものだ。ある程度まとまった量を聞き取らなければならないので、一言一句聞いていくというよりは、重要な情報をキャッチし、素早くメモを取る能力が必要とされる。

beo カレッジの授業では、まずテキストの設問を読んで聞き取るべき情報をつかみ、CD の音声聞いたあと、聞き取れた情報に

ついて受講生の間で話し合うといったことが行われる。皆で回答を話し合っているうちに、例えば解答は「office」だけでは不十分で、「guided tour office」（ガイドツアーのオフィス）とする必要がある、といったことがわかってくるのである。「リスニングの学習は、もちろん授業だけでは十分ではありません。宿題を出すほか、インターネットやテレビなどを活用し、できるだけ多彩な内容の英語を聞くことを勧めています。例えば、英語の歌やおしゃべりといったものでもいいのです」と、アンダーソン講師。その際も、聞き取ったことをメモする習慣をつけると、IELTS 対策としてさらに有効になるとのことだ。

英語オンリーの好環境

授業レポート

今回は「大学院留学準備コース」の IELTS 対策授業を見学した。1クラス15人程度、木曜の夜と日曜の全日を使い、聞くのも話すのも英語だけという環境の中で学ぶ。講師の話す英語はナチュラル・スピード。授業の間ずっと耳を傾けているだけで、効果的なリスニングの練習になりそうだ。

この日のリスニング学習の素材は、オーストラリアでの休暇の過ごし方について、友人にアドバイスを求めるという設定。最初にテキストにあるオーストラリアの写真を見て、What can you see? といった講師の質問に答え、会話の内容を推測する。

さらに、テキストの設問を読んで聞き取るべきポイントを把握したら、

CD の音声聞く。IELTS の本番では、音声は1回しか流れないので、1回聞いただけでできるだけ正確な情報を得ることが肝心だ。講師からは、「restaurant ではなく restaurants と複数にすること」「スペルミスがあると得点が得られない」など試験対策となる指摘があり、皆熱心に聞き入っていた。

beo カレッジ <http://beocollege.jp/>

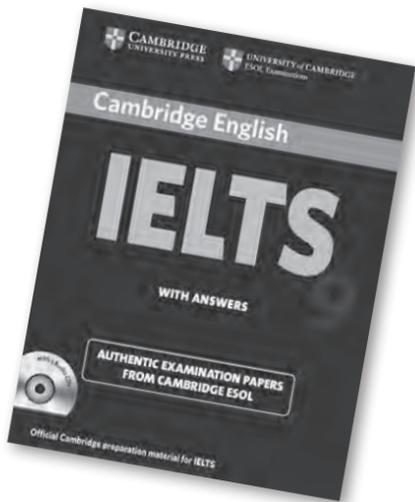
Book IELTS 攻略本

[Cambridge IELTS 9 Self-study Pack]

模擬試験に挑戦!

IELTS 実施団体である Cambridge English Language Assessment より出題された過去問題から、4種のアカデミックモジュールと2種のジェネラルトレーニングモジュールを収録。テスト、モジュールの紹介に加えて、各セクションやスコアリングシステムの説明もあります。試験形式に慣れたい、試験レベルに慣れたい、問題の傾向を知りたい、自分の弱点を見つけたい方に最適の公式問題集。

Self-study Pack 本体価格 5,000 円



上手な
活用法

解答つきの Student's Book や Audio CD だけでも販売されていますが、自学自習するなら、これらがセットになった Self-study pack がおすすめ。本番さながらに何度も解いてみましょう。

[Top Tips for IELTS (Academic, General Training)]

初めて受験するなら

各スキルテスト（リスニング、リーディング、ライティング、スピーキング）の各セクションで出題される問題形式に対するヒントが例題を使って紹介されており、テストの出題形式、テストの全体像を把握するのにぴったりの公式問題集シリーズです。付属の CD-ROM には練習問題、答え、サンプル解答（ライティング）、ビデオ（スピーキングサンプル）が収録されています。

Academic 本体価格 1,200 円

General Training 本体価格 1,200 円



上手な
活用法

初めて IELTS を受ける方におすすめです。各セクションで示されている問題傾向・形式を意識しながら問題を解いていくことで、効率よく学ぶことができ、より高い学習効果が得られます。

Vol.8 オックスフォード大学 船山静夏さん

留学で培う3つの力

多角的な観点からアフリカを学ぶ

IELTS 奨学金をいただき、2012年10月から2013年7月の間、英国・オックスフォード大学のアフリカ研究修士課程に留学しました。私は大学卒業後2年ほど、開発援助関係の仕事に従事していましたが、エチオピアへの出張やナイジェリアへの赴任がきっかけで、アフリカに強い関心を抱くようになりました。

そこで、アフリカについているいろいろな切り口から理論的に学びたいと思い、「アフリカ研究」というコースを選択しました。学際的な地域研究を選択したことで、一つの観点にとらわれず、さまざまな視点からアフリカについて学ぶことができたと思っています。また、全体の6割が留学生という国際的な環境で学び、人間的にも大きく成長できました。

ちから

1

鈍感力 文法や内容にとらわれず
まずは発言する

私は昔から人見知りや人見知り激しく恥ずかしがり屋で、口数が少なく、自分の意見をあまり言えないタイプでした。日本では周りの人も気遣ってくれるので特に不自由はしないものの、英国では、意見を言わない、イコール自分の意見がないものと見なされてしまいます。

例えばディスカッションの時間に、英語がうまく話せないからといって黙っていると、予習をしてきていないものと勘違いされてしまいますし、もっと身近なところでは、クラスメイトが集まって談笑している場でじっと黙っていると、無愛想な人と思われてしまいます。ですから、些細な文法的間違いや発音の悪さを気にせず、内容が薄くてもいいからまずとにかく何か喋る、ということ意識して行うようにしました。そうすることで、少し時間はかかりましたが、クラスメイトとも打ち解けられましたし、ディスカッションでも最低限の発言はできたように思います。

このように、英語の拙さを気にしないで喋るとか、話の内容を考えすぎず、くだらないことでも何か声に出してみる、といったことを通して、何でも気にしな

ぎない、考えすぎないという意味での「鈍感力」が身につきました。

自分が思っているほど周りの人は私の些細なミスや間違いを気にしないし、気づいていてもすぐに忘れてしまうものです。恥ずかしいと思ったり間違いを犯したりすることを恐れて黙っていると、誰も自分を正しく理解してはくれません。海外の大学に身を置き、ある意味で差し迫った状況に置かれたことで、先に述べたような鈍感力が身についたのだと思います。この鈍感力によって、あまり得意でない英語でも恥ずかしがらずに自分の意見を言えるようになりました。このおかげで、大学院で出会ったナイジェリア出身のクラスメイトとぐっと親しくなり、今では彼が私の一番の親友です。

クラスメイトと一緒にオフタイムを楽しむ。



ちから

3

客観力 自分を客観視することで
強みを再発見する

留学中、いろいろなバックグラウンドを持った人と話し、行動を共にすることで、所与のものと思っていたことが実はほんでもない特権であることを実感させられたり、逆に自分が思いもよらないことが世界のどこかではまかり通っているという、いわゆるカルチャーショックを数えきれないほど経験しました。

例えば、日本ではピアノの音階は誰もが知っていて、簡単な曲ならピアノを習っていないくても一曲くらいひけそうなもの

ですが、アフリカ出身の友人は、たとえ上流階級の出身であっても、ピアノの音階など知らないのだということを知ったときは衝撃を受けました。こうした経験から、自分の考えや経験を客観視し、自分はこう思うけれども反対の意見を持つ人もいて然るべきだとか、自分はこう思っているけれども実は主流とは違うかもしれない、というように、物事をより冷静に、広い視野でとらえることができるようになりました。それによって、対立する意

見に直面した時に、感情的に反応するのではなく、相手の意見の背景にある論理や状況に思いを巡らせ、相手の思考を想像し、その人の考えを客観的に分析し評価することができます。

私が客観力と表現したのは、自分の考えは主観に過ぎず、限られた知識に則って偏っているのだということを前提とし、自分の考えを相対化する度量です。これは一方では自分を卑小化することでもありますが、他方で、ごくごく普通で凡庸だと思っていた自身の知識やス

キルも、実は広い視野で見れば類まれで有用かもしれない、自分が今のままでも何か貢献できる場所があるかもしれない、自分に自信を持つことにもつながります。客観力を身につけたことで、自分の視野が限られていること、思考に偏りがあることを認めたらうて、自分の強みを再発見することができたと思います。

ちから
2社交力 苦手な社交の場で得た
数多くの貴重な出会い

1で述べたとおり、私は人見知りや人見知り激しく、人が集まる場所に行くのも苦手でした。しかし、オックスフォード大学では、日本人会などソサエティのイベントやカレッジごとのイベントなど、人の集まるイベントが頻りに開催されます。そういった集まりに参加することは、ネットワークという観点でも大切ですし、ちょっとした会話がきっかけとなって、自分の研究課題に関わる新しい視点を発見することができるチャンスにもつながります。ですから、このような集まりを、ただ単純に友達をつくるというだけでなく、広い意味での学びの場ととらえ、意識的に参加するようにしました。

うまく場になじめない時ももちろんありましたが、顔と名前を覚えてもらうだけでもひとつの成果なので、苦手意識を乗り越えて、とにかく参加することを心がけました。その結果、全く違うコースを履修している友人もたくさんできました。関心を異にする友人と会話すること

で、当たり前だと思っていた自分の考えと違う考え方があるということや、自分の全く知らなかった事実を学ぶことができ、学問の面だけでなく、一人の人間としても随分と成長することができたと思います。

また、人の集まりに慣れることで、あまり得意でない英語でも自分から人に話しかけ、ちょっとした会話をつないでいくことができるようになりました。アカデミックな英語を勉強するだけではなかなか実際の会話力を身につけることはできませんでしたが、留学して実際に英語環境の中で暮らすことで、会話で使えるくだけた表現や単語を身につけられたことも、社交力が向上した大きな要因だと思います。

社交力を養えたおかげで、コースが終わった後に英国周遊旅行をした時も、自信を持って自分から人に話しかけたり冗談を言い合ったりすることができ、楽しい時間を過ごすことができました。

社交の場は、多様な価値観に出会える学びの場だ。



留学で培った力を武器に、新しいステージへと旅立つ。





第1回



Go Global Japan Expo

グローバル人材育成推進事業

目指せ!世界にはばたくグローバル人材!
～進学・留学・キャリアを考える～

グローバル人材育成に取り組んでいる大学の進学・留学相談会

Go Global Japan Expoとは、グローバル人材育成推進事業採択42大学、グローバル30及び大学の世界展開力強化事業採択5大学による、47大学合同の相談・体験イベントです。世界各国の大使館、各種試験団体、英語・キャリア教育関連団体等もブースを出展します。

日程 **2013.12.15** 日
9:30-18:00 **参加無料
入退場自由**

場所 **早稲田大学 大隈記念講堂(大講堂・小講堂)
小野記念講堂・1号館・26号館**

対象 **高校生、保護者、高校教育関係者、
大学生、大学教育関係者、その他一般**

参加大学 [国立大学] 北海道大学、東北大学、筑波大学、埼玉大学、千葉大学、お茶の水女子大学、東京大学、東京医科歯科大学、東京海洋大学、東京工業大学、一橋大学、新潟大学、福井大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、神戸大学、鳥取大学、山口大学、九州大学、長崎大学 [公立大学] 国際教養大学、愛知県立大学、山口県立大学、北九州市立大学 [私立大学] 共愛学園前橋国際大学、神田外語大学、亜細亜大学、杏林大学、慶應義塾大学、国際基督教大学、芝浦工業大学、上智大学、昭和女子大学、創価大学、中央大学、東洋大学、法政大学、武蔵野美術大学、明治大学、早稲田大学、愛知大学、京都産業大学、同志社大学、立命館大学、関西学院大学、立命館アジア太平洋大学

◎主催:文部科学省、グローバル人材育成推進事業 採択大学42校 ◎後援:朝日新聞社、日本経済新聞社、毎日新聞社、読売新聞社 ◎協力:米国大使館/EducationUSA、オーストラリア大使館マーケティング事務所、カナダ大使館広報部、Campus France-フランス政府留学局・日本支局、ドイツ学術交流会(DAAD)、ブリティッシュ・カウンシル、グローバル教育推進プロジェクト(GIFT)、JAFSA(国際教育交流協議会)、日本学生支援機構(JASSO) ◎協賛:朝日ネット、アネスタ、アルク/アルク教育社、ETS TOEIC®、ETS TOEFL®、全日本空輸、ディスコ、東京海上日動火災保険、日本英語検定協会 IELTS事務局、日本航空、ベネッセコーポレーション(GTEC for STUDENTS)、マイナビ国際就職(マイナビ)

テーマゾーン

- 基調講演 真の「グローバル人材」とは
株式会社ローソン 代表取締役CEO 新浪 剛史 氏
世界で活躍できる秘訣とは
野球評論家/元メジャーリーガー(ニューヨーク・メッツ) 小宮山 悟 氏
- 文部科学省「トビタテ!留学JAPAN」キャンペーン
- 高校生と大学生によるパネルディスカッション「世界について考えよう!」

体感ゾーン

- ブース出展
参加47大学、大使館、協賛企業、協力団体による相談コーナー
留学と進学、各国紹介、語学、キャリア、海外留学奨学金など
文部科学省「トビタテ!留学JAPAN」キャンペーン紹介
- 来場者参加型ワークショップ
- 学生ボランティアによるパネルディスカッション

プレゼンテーションゾーン

- 参加大学、大使館、協賛企業、協力団体によるプレゼンテーション
- 朝日新聞社企画「朝日グローバルセミナー 世界とつながる」

*イベントの内容は予告なく変更する場合があります。最新情報はホームページでご確認ください。

詳細は、Go Global Japan Expo
ホームページでご確認ください。

<http://ggj-expo.com>

(お問い合わせ先) Go Global Japan 代表幹事校 早稲田大学 E-mail ggj-event2013@list.waseda.jp